

利率ニ相當スル利率若ハ收益交付率ヲ以テ除シ之ヲ計算ス

第二十二條 同一ノ組合員ガ二口以上ノ第二十條第一號乃至第三號ノ預金又ハ合同運用信託ヲ有スルトキハ法第四條第一項ノ元本額ハ此等ノ銀行預金、貯蓄銀行預金、産業組合貯金、第十九條ノ貯金又ハ合同運用信託ヲ各別ニ換算シタルモノニ依リ之ヲ計算ス

同一ノ組合員ガ同一ノ郵便貯金通帳ヲ以テ保管ノ委託ヲ爲シタル二以上ノ第二十條第四號ノ國債ヲ有スルトキハ法第四條第一項ノ額面金額ハ各國債ノ額面金額ヲ換算シタルモノニ依リ之ヲ計算ス同一ノ組合員ガ登録シタル二以上ノ第二十條第四號ノ國債ヲ有スル場合亦同ジ

同一ノ組合員ガ二以上ノ第二十條第五號ノ地方債ヲ有スルトキハ法第四條第一項ノ額面金額ハ各地方債ノ額面金額ヲ合算シタルモノニ依リ之ヲ計算ス同一ノ組合員ガ二以上ノ第二十條第五號ノ社債ヲ有スル場合亦同ジ

第二十二條ノ二 同一人ガ預金者貯蓄組合ノ幹旋ニ依ルニ口以上ノ第二十條第一號又ハ第二號ノ預金ヲ有スルトキハ法第四條第一項ノ元本額ハ銀行預金、貯蓄銀行預金又ハ産業組合貯金ヲ各別ニ合算シタルモノニ依リ之ヲ計算ス

ス

第二十三條 法第四條第一項ノ規定ニ依リ預金、合同運用信託又ハ國債ノ利子又ハ利益ニ付分類所得税ノ免除ヲ受ケントスル者ハ當該預金、合同運用信託又ハ國債ガ組合貯蓄臺帳ニ記載セララルモノナルコトヲ證スル組合長ノ證明書ヲ支拂者ニ提出スベシ

法第四條第一項ノ規定ニ依リ地方債又ハ社債ノ利子ニ付分類所得税ノ免除ヲ受ケントスル者ハ當該地方債又ハ社債ガ組合貯蓄臺帳ニ記載セララルモノナルコト及各組合員ノ名簿ヲ以テ爲サルル貯蓄ナルトキハ當該地方債又ハ社債ノ額面金額ガ當該組合ノ幹旋ニ依リ買入レ分類所得税ノ免除ヲ受ケル他ノ地方債又ハ社債ノ額面金額(以下他ノ地方債又ハ社債ノ額面金額ト稱ス)ト合算シテ七千圓以下ナルコトヲ證スル組合長ノ證明書ヲ支拂者ニ提出スベシ

第二十四條 國民貯蓄組合ノ代表者ノ名簿ヲ以テ預金若ハ合同運用信託ヲ爲シ又ハ國債、地方債若ハ社債ノ保管ノ委託若ハ登録ヲ爲ス場合ニ於テ法第四條第一項ノ規定ニ依リ分類所得税ノ免除ヲ受ケントスルトキハ各組合員別ノ明細書(地方債又ハ社債ニ關スルトキハ他ノ地方債又

ハ社債ノ額面金額ヲ附記スベシ)ヲ支拂者ニ提出スベシ但シ一組合員ノ支拂者毎ノ貯蓄現在高(地方債又ハ社債ニ關スルトキハ他ノ地方債又ハ社債ノ額面金額ヲ合算シタルモノ)ガ二千五百圓未滿ノモノニ付テハ其ノ組合員

數及貯蓄ノ合計金額ノミヲ記載スルヲ以テ足ルモノトス

第二十五條 法第四條第一項ノ規定ニ依リ預金又ハ合同運用信託ノ利子又ハ利益ニ付分類所得税ノ免除ヲ受ケタル者ガ其ノ契約ノ日ヨリ二年以内(合同運用信託ノ場合ハ當該信託契約ノ日ヨリ三年以内)ニ於テ全部又ハ一部ノ元本ノ拂戻ヲ受ケルトキハ當該元本ヨリ生ジタル利子又ハ利益ニ付免除ヲ受ケタル分類所得税額ニ相當スル金額ヲ其ノ拂戻ノ際支拂者ニ於テ徴收スベシ

前項ノ場合ニ於テ拂戻ヲ受ケル元本ニ付拂戻ノ際未ダ支拂ヲ爲サザル利子又ハ利益アルトキハ其ノ利子又ハ利益ニ付テハ分類所得税ノ免除ハ之ヲ爲サズ

第二十六條 國民貯蓄組合法第五條ノ規定ニ依リ補助金又ハ獎勵金ノ交付ヲ受ケタルトキハ之ガ收支計算ヲ明ニスベシ

第二十七條 大藏大臣法第六條ノ規定ニ依リ國民貯蓄組合ノ組織ヲ命ズル場合ニ於テハ組合ヲ組織スベキ者ノ範圍及組織スベキ期限ヲ指定シタル命令書ヲ組合員タルベキ者ニ送付ス

第二十八條 法第七條ノ規定ニ依リ帳簿書類其ノ他ノ物件ノ検査ヲ爲ス當該官吏ハ其ノ身分ヲ示ス別記様式ニ依リ證券ヲ携帶スベシ

第二十九條 國民貯蓄組合ノ規定ニ依ル合同運用信託ニ關リ信託業法施行細則第八條ノ規定ニ依ル制限ハ之ヲ三百圓未滿トス

第三十條 貯蓄銀行ニ非ザル銀行法第九條ノ規定ニ依リ貯蓄銀行法第一條第一項第一號又ハ第三號ニ掲グル業務ヲ營マントスルトキハ業務ノ種類及方法ヲ記載シタル届出書ヲ大藏大臣ニ提出スベシ

貯蓄銀行法施行細則第二條及第三條ノ規定ハ前項ノ届出書ニ付之ヲ準用ス

第三十一條 貯蓄銀行ニ非ザル銀行前條ノ業務ノ種類又ハ

方法ヲ變更セントスルトキハ其ノ内容及事由ヲ記載シタル届出書ヲ大蔵大臣ニ提出スベシ

第三十二條 貯蓄銀行ニ非ザル銀行法第九條ノ規定ニ依リ預金ヲ受入レタルトキハ別ニ帳簿ヲ備ヘ其ノ元利ノ受拂ニ關スル事項ヲ記載スベシ

第三十三條 貯蓄銀行法第九條第三項及貯蓄銀行法施行細則第五條乃至第八條ノ規定ハ法第十條第一項ノ規定ニ依リル國債ノ供託ニ付之ヲ準用ス

第三十四條 銀行法施行細則第二十九條ノ規定ハ第三十五條、第三十六條並ニ前條ノ規定ニ於テ準用スル貯蓄銀行法施行細則第七條及第八條ノ規定ニ依リ貯蓄銀行ニ非ザル銀行ノ大蔵大臣ニ提出スベキ書類ニ付之ヲ準用ス

第三十五條 國民貯蓄組合ノ提出スベキ書類ハ左ノ各號ニ該當スル場合ニ於テ各其ノ定ムル所ニ依ルノ外之ヲ一通作成シ當該組合ノ主タル事務所所在地ヲ管轄スル市町村長ヲ經テ地方長官ニ提出ンベシ

一 陸海軍ノ官衙ニ於ケル組合ニ在リテハ之ヲ二通作成シ大蔵大臣ニ提出スベシ
二 工場事業場管理令ニ依リ陸軍大臣又ハ海軍大臣ノ管理スル工場事業場ニ於ケル組合ニ在リテハ之ヲ二通作成

シ大蔵大臣ニ提出スベシ但シ勤務者數當時千人以上ノ工場事業場ニ於ケル組合ニ在リテハ第十三條、第十六條及第十七條ノ規定ニ依リ提出スベキ書類ニ付テハ之ヲ三通トス

三 工場法、鑛業法又ハ砂鑛法ノ適用ヲ受クル工場又ハ事業場ニ於ケル組合ニ在リテハ前號但書ノ書類ハ之ヲ二通作成シ當該組合ノ主タル事務所所在地ヲ管轄スル市町村長ヲ經テ地方長官ニ提出スベシ但シ勤務者數當時千人以上ノ工場又ハ事業場ニ於ケル組合ニ在リテハ夫々一通ヲ加フルモノトス

四 資本金千萬圓以上ノ會社ノ事務所又ハ之ニ準ズベキモノニシテ其ノ役員及職員ノ數當時百人以上ノモノニ於ケル組合ニ在リテハ第十三條、第十六條及第十七條ノ規定ニ依リ提出スベキ書類ハ之ヲ二通作成シ當該組合ノ主タル事務所所在地ヲ管轄スル市町村長ヲ經テ地方長官ニ提出スベシ

第三十六條 第十條第二項及第十二條ノ規定ハ陸海軍ノ官衙ニ於ケル國民貯蓄組合ニ之ヲ適用セズ
本令ニ地方長官トアルハ陸海軍ノ官衙又ハ工場事業場管理令ニ依リ陸軍大臣若ハ海軍大臣ノ管理スル工場事業場

ニ於ケル國民貯蓄組合ニ在リテハ之ヲ大蔵大臣トメ

附 則

本令ハ昭和十七年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

退職積立金及退職手當法

昭和十一年六月二日(總、大、內、大臣閣議) 昭和十五年
日法律第四十二號(連、高、) 三月法律第
五九 一六年三月第
號 六〇號 改正

退職積立金及退職手當法

第一章 總 則

第一條 本法ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル事業ニシテ當時五十人以上ノ労働者ヲ使用スルモノニ之ヲ適用ス

- 一 工場法ノ適用ヲ受クル工場
 - 二 鑛業法ノ適用ヲ受クル事業
- 主務大臣ハ事業ノ種類又ハ規模ヲ限リ本法ノ適用ヲ除外スルコトヲ得

第二條 本法ノ適用ヲ受クル事業ガ規模ノ縮少其ノ他ノ事由ニ因リ本法ノ適用ヲ受ケザルニ至リタル場合ニ於テ事業主其ノ旨ヲ行政官廳ニ届出ヅル迄ハ前條ノ規定ニ拘ラ

第八篇 其他關係法規

ズ仍本法ヲ適用ス

第三條 第一條第一項各號ノ事業ニシテ本法ノ適用ヲ受ケザルモノノ事業主退職積立金、退職手當積立金又ハ退職手當及之ガ支給ニ充ツル爲ノ準備積立金ニ關スル規程ヲ定メ行政官廳ノ許可ヲ受ケタルトキハ其ノ事業ニ第十一條、第十六條及第十七條中積立ノ率ニ關スル規定並ニ第三十條第三項ノ規定ヲ除クノ外本法ヲ適用ス
前項ノ規定ニ依リ許可ヲ受ケタル規程ヲ廢止又ハ變更セントスルトキハ行政官廳ノ許可ヲ受クベシ

第四條 營業ノ讓渡其ノ他ノ事由ニ因リ事業ノ承繼アリタル場合ニ於テ労働者ガ引續キ承繼人ニ使用セララルトキハ其ノ労働者ト從前ノ事業主トノ間ニ本法ニ依リテ生ジタル法律關係ハ承繼人ニ移轉ス
前項ノ場合ニ於テ積立金ノ承繼ニ關シ必要ナル事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第五條 本法ノ適用ヲ受クル事業ニ使用セララル労働者ノ中左ニ掲グル者ニハ本法ヲ適用セズ但シ第一號若ハ第二號ニ該當スル者六月ヲ超エテ引續キ使用セララルニ至リタルトキ又ハ第三號ニ該當スル者一年ヲ超エテ引續キ使用セララルニ至リタルトキハ其ノ時ヨリ其ノ者ニ本法ヲ

適用ス

- 一 六月以内ノ期間ヲ定メテ使用セラルル者
- 二 日日履レラルル者
- 三 季節的事業ニ使用セラルル者

前項第三號ノ季節的事業ノ範圍ハ主務大臣之ヲ定ム

第六條 賃金及標準賃金ニ關シ必要ナル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第七條 行政官廳ハ事業主ニ對シ本法ニ依ル積立金ノ積立若ハ運用、退職積立金ノ支拂又ハ退職手當ノ支給其ノ他本法ノ施行ニ關スル事項ニ付必要ナル検査ヲ爲シ又ハ事業主ヲシテ報告ヲ爲サシムルコトヲ得

第八條 本法ニ依リ事業主ノ積立ツベキ退職手當積立金及準備積立金ノ額ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ法人タル事業主ニ在リテハ事業年度、個人タル事業主ニ在リテハ曆年ニ於ケル労働者ノ其ノ期間中ノ賃金ノ百分ノ七ニ相當スル額以下トス

第九條 本法ノ適用ヲ受ケタル事業ガ事業ノ廢止其ノ他ノ事由ニ因リ本法ノ適用ヲ受ケザルニ至リタル場合ニ於テ退職積立金支拂又ハ退職手當支給ノ完了ニ至ル迄ハ之ニ必要ナル限度ニ於テ仍本法ヲ適用ス

第十條 本法ハ政府ノ事業ニ之ヲ適用セズ
都道府縣及市町村其ノ他之ニ準ズベキモノノ事業ニ關シテハ本法ノ適用ニ付勅令ヲ以テ別段ノ規定ヲ設クルコトヲ得

第二章 退職積立金

第十一條 事業主ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ労働者ノ賃金ノ中ヨリ其ノ百分ノ二ニ相當スル金額ヲ各労働者ニ代リ其ノ名義ヲ以テ退職積立金トシテ積立ツベシ但シ労働者年金保險ノ被保險者タル労働者ニ付テハ其ノ二分ノ一以上ヨリ積立ヲ爲サザルコトノ申出アリタル場合ニ於テハ此ノ限ニ在ラズ

第十二條 労働者退職（解雇及死亡ヲ含ム以下之ニ同ジ）其ノ他ノ事由ニ因リ本法ノ適用ヲ受ケザルニ至リタル場合ニ非ザレバ前條ノ退職積立金ノ支拂ヲ受ケルコトヲ得

第十三條 事業主豫メ確實ナル方法及利子ノ定率ヲ定メ行政官廳ノ許可ヲ受ケタル上労働者ノ同意ヲ得タルトキハ

其ノ労働者ノ退職積立金ヲ運用スルコトヲ得

行政官廳ハ前項ノ許可ヲ爲ス場合ニ於テ必要ト認ムル額ノ國債ヲ供託スベキコトヲ命ズルコトヲ得

行政官廳必要アリト認ムルトキハ第一項ノ許可ヲ取消シ又ハ前項ノ國債ノ増額ヲ命ズルコトヲ得

労働者ハ事業主ノ運用シタル退職積立金ニ關シ前二項ノ規定ニ依リ供託シタル國債ニ付他ノ債權者ニ先チテ辨濟ヲ受ケルノ權利ヲ有ス

前項ノ權利ノ實行ニ關シ必要ナル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第十四條 前條第一項ノ規定ニ依リ退職積立金ヲ運用シタル場合ニ於テ労働者退職其ノ他ノ事由ニ因リ本法ノ適用ヲ受ケザルニ至リタルトキハ事業主ハ運用シタル金額ニ

前條第一項ノ利子ヲ附シタルモノヲ退職積立金トシテ其ノ労働者ニ支拂フベシ

第十五條 退職積立金ノ支拂ヲ受ケルノ權利ハ之ヲ讓渡シ又ハ差押フルコトヲ得ズ

第三章 退職手當

第十六條 事業主ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ毎年一回以上一定ノ期間末ニ於ケル労働者ノ其ノ期間中ノ賃金ノ百分ノ

第八篇 其他關係法規

二ニ相當スル金額ヲ退職手當積立金トシテ遲滞ナク積立ツベシ災害其ノ他已ムヲ得ザル事由アルトキハ事業主ハ行政官廳ノ許可ヲ受ケ前項ノ規定ニ拘ラズ積立ヲ爲サズ又ハ減額シテ積立ツルコトヲ得

第十七條 事業主ハ前條ノ退職手當積立金ノ外勅令ノ定ムル所ニ依リ毎年一回以上一定ノ期間末ニ於ケル労働者ノ其ノ期間中ノ賃金ノ百分ノ三以内ニ於テ行政官廳ノ許可ヲ受ケタル金額ヲ退職手當積立金トシテ遲滞ナク積立ツベシ但シ行政官廳ノ許可ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第十八條 前二條ノ退職手當積立金ハ計算期毎ニ其ノ期間中ノ賃金ニ比例シテ労働者別ニ計算ヲ明ニスベシ但シ前條ノ退職手當積立金ニ限リ事業主豫メ行政官廳ノ許可ヲ受ケタルトキハ勤務年限、勤務狀態其ノ他ニ依リ異ル率ヲ以テ労働者別ニ計算スルコトヲ得

第十九條 事業主ハ退職手當積立金ヨリ生ジタル利子（分類所得稅ヲ課セラレタルトキハ之ヲ差引キタル金額）及第二十一條第一項ノ規定ニ依リ退職手當積立金ヲ運用シタル場合ニ於テハ同條同項ノ利子ヲ退職手當積立金トシテ遲滞ナク積立ツベシ

前項ノ場合ニ於テハ命令ノ定ムル所ニ依リ一定ノ計算期ニ於テ労働者別ニ計算ヲ明ニスベシ

第二十條 退職手當積立金ノ積立ハ命令ノ定ムル所ニ依リ他ノ財産ト分別シテ左ノ方法ニ依リ之ヲ爲スベシ

- 一 郵便貯金
- 二 銀行ヘノ貯金
- 三 金銭信託
- 四 登録國債

第二十一條 事業主兼メ確實ナル方法及利子ノ定率ヲ定メ行政官廳ノ許可ヲ受ケタルトキハ退職手當積立金ヲ運用スルコトヲ得

第十三條 第二項乃至第五項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第二十二條 本法ニ依リ退職手當積立金トシテ積立ツル金額ハ所得税法、法人税法、營業税法及臨時利得税法ノ適用ニ付テハ之ヲ總損金又ハ必要ノ経費ト看做ス
都道府縣及市町村其ノ他之ニ準ズベキモノハ本法ニ依リ退職手當積立金トシテ積立ツル金額ヲ標準トシテ課税スルコトヲ得ズ

第二十三條 退職手當積立金ノ拂戻又ハ償還ヲ受クルノ權

ヲ維持シタル者ニ之ヲ支給スベシ

第二十五條 前條第一項但書ノ規定ニ依リテ支給スルコトヲ要セザル金額ヲ生ジタルトキハ事業主ハ第二十六條第一項ノ特別手當ニ充ツル爲メ積立金(特別手當積立金)トシテ之ヲ保留スベシ

第二十六條 事業主事業ノ都合ニ依リ労働者ヲ解雇シタルトキハ退職手當トシテ第二十四條第一項ノ金額ノ外特別手當積立金ノ存スル限度ニ於テ左ノ各號ノ一ニ達スル迄ノ金額(特別手當)ヲ加算シテ支給スベシ但シ命令ノ定ムル所ニ依リ特別ノ事由アル場合ニ於テハ加算スルコトヲ要セズ

- 一 勤続一年以上三年未準ノ者ニ付テハ標準賃金二十日分ニ相當スル金額
- 二 勤続三年以上ノ者ニ付テハ標準賃金三十五日分ニ相當スル金額

特別手當ヲ受クベキ者二人以上アル場合ニ於テ特別手當積立金ガ前項各號ノ金額ヲ支給スルニ足ラザルトキハ其ノ支給ヲ受クベキ者ノ前項各號ノ金額ニ按分シ特別手當ノ金額ト爲スベシ

第二十四條 第二項ノ規定ハ特別手當ノ支給ニ之ヲ準用ス

利ハ之ヲ讓渡シ又ハ差押フルコトヲ得ズ但シ本法ニ依リ退職手當ヲ受クベキ者第二十四條第一項第一號ノ金額又ハ第二十六條第一項ノ特別手當ノ金額ニ付差押フルコトヲ妨ゲズ

第二十四條 労働者退職其ノ他ノ事由ニ因リ本法ノ適用ヲ受ケザルニ至リタルトキハ事業主ハ左ノ各號ノ金額ヲ退職手當トシテ支給スベシ但シ命令ノ定ムル所ニ依リ特別ノ事由アル場合ニ於テハ其ノ全部又ハ一部ヲ支給セザルコトヲ得

- 一 第十八條、第十九條第二項及第二十八條第二項ノ規定ニ依リ其ノ労働者ノ計算ニ屬スル金額
- 二 第十六條第一項ノ規定ニ依リ積立ノ最後ノ期間後ノ賃金ノ百ノ二ニ相當スル金額

前項第一號ノ金額ハ退職手當積立金ノ中ヨリ之ヲ支給シ退職手當積立金ヲ以テ之ヲ支給スルコト能ハザルトキハ事業主ノ他ノ財産ヨリ之ヲ支給スベシ
第一項第二號ノ金額ハ退職手當積立金ノ中ヨリ之ヲ支給スルコトヲ得ズ

労働者死亡シタル場合ニ於テハ退職手當ハ命令ノ定ムル所ニ依リ遺族又ハ労働者ノ死亡當時其ノ収入ニ依リ生計

第二十七條 事業主行政官廳ノ許可ヲ受ケ特別手當積立金ノ限度ヲ定メタルトキハ其ノ限度ヲ超ユル金額ハ第十六條及第十七條ノ規定ニ依リ積立ツベキ金額ニ之ヲ充當スベシ
行政官廳必要アリト認ムルトキハ前項ノ許可ヲ取消シ又ハ變更スルコトヲ得

第二十八條 事業主ハ第十九條第二項ノ計算期ニ於テ退職手當積立金ノ欠損ヲ填補シ餘剰ヲ積立ツベシ
前項ノ規定ニ依リ餘剰ヲ積立ツル場合ニ於テハ命令ノ定ムル所ニ依リ労働者別ニ計算ヲ明ニスベシ

第二十九條 本法ニ依リ退職手當ヲ受クルノ權利ハ之ヲ讓渡シ又ハ差押フルコトヲ得ズ

第三十條 事業主退職手當及之ガ支給ニ充ツル爲メ準備積立金ニ關スル規定ヲ定メ行政官廳ノ許可ヲ受ケタルトキハ第十六條及第十七條ノ規定スヲ退職手當積立金ノ積立ヲ爲サザルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ許可ヲ受ケタル規定ノ廢止又ハ變更ハ行政官廳ノ許可ヲ受ケタルニ非ザレバ其ノ效力ヲ生ゼズ
事業主ハ第一項ノ規定ニ依リ許可ヲ受ケタル場合ニ於テ労働者退職其ノ他ノ事由ニ因リ本法ノ適用ヲ受ケザルニ

至リタルトキハ少クトモ勤続一年ニ付標準賃金十二日分ニ相當スル退職手當(事業ノ都合ニ依ル解雇ノ場合ニ於テハ勤続一年以上三年未滿ノ者ニ付テハ標準賃金二十日分、勤続三年以上ノ者ニ付テハ標準賃金三十五日分ニ相當スル金額ヲ加算シタルモノ)ヲ支給スベシ此ノ場合ニ於テハ第二十四條第一項但書及第二十六條第一項但書ノ規定ヲ準用ス

第二十条乃至第二十三條及第二十八條第一項ノ規定ハ第一項ノ準備積立金ニ、第二十四條第四項、第二十九條及第三十一條ノ規定ハ第一項ノ退職手當ニ之ヲ準用ス
行政官廳必要アリト認ムルトキハ第一項ノ許可ヲ取消シ又ハ準備積立金ノ増額ヲ命ズルコトヲ得

第四章 退職金審査會

第三十一條 退職積立金ノ支拂又ハ退職手當ノ支給ニ關スル事項ニ付民事訴訟ヲ提起スルニハ退職金審査會ノ審査ヲ經ルコトヲ要ス
前項ノ審査ノ請求ハ時効ノ中斷ニ關シテハ裁判上ノ請求ト看做ス

第三十二條 退職金審査會ノ組織及審査ニ關シ必要ナル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第五章 罰則

第三十三條 事業主第二十一條第一項(第三十條第四項又ハ第四十二條ニ於テ準用スル場合ヲ含ム)ノ許可ヲ受ケズシテ退職手當積立金又ハ準備積立金ヲ處分シタルトキハ一年以下ノ禁錮又ハ三千圓以下ノ罰金ニ處ス
事業主法人ナル場合ニ於テ前項ノ許可ヲ受ケザルニ拘ラズ其ノ理事、取締役其ノ他法人ノ業務ヲ執行スル役員退職手當積立金又ハ準備積立金ヲ處分シタルトキ其ノ者ニ付亦前項ニ同ジ

第三十四條 事業主左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

一 第三條第二項、第十一條第一項、第十四條、第十六條第一項、第十七條、第十八條、第十九條、第二十條(第三十條第四項又ハ第四十二條ニ於テ準用スル場合ヲ含ム)、第二十四條第一項第四項(第三十條第四項ニ於テ準用スル場合ヲ含ム)、第二十五條、第二十六條第一項、第二十七條第一項、第二十八條(第三十條第四項又ハ第四十二條ニ於テ準用スル場合ヲ含ム)又ハ第四十一條第二項ノ規定ニ違反シタルトキ
二 第十三條第二項第三項(第二十一條第二項、第三十

條第四項又ハ第四十二條ニ於テ準用スル場合ヲ含ム)、第十七條又ハ第三十條第五項ノ規定ニ依ル命令ニ從ハザルトキ

三 第三條第一項、第三十條第一項又ハ第四十二條ノ規定ニ依リ許可ヲ受ケタル準備積立金ノ積立ヲ爲サザルトキ

四 第三十條第三項ノ規定ニ依リ支給スベキ退職手當トシテ勤続一年ニ付標準賃金十二日分以内ニ相當スル金額(事業ノ都合ニ依ル解雇ノ場合ニ於テハ勤続一年以上三年未滿ノ者ニ付テハ標準賃金二十日分以内、勤続三年以上ノ者ニ付テハ標準賃金三十五日分以内ニ相當スル金額ヲ加算シタルモノ)ヲ支給セザルトキ

第三十五條 第七條ノ規定ニ依ル検査ヲ拒ミ、妨ゲ若ハ忌避シ又ハ報告ヲ爲サズ若ハ虚偽ノ報告ヲ爲シタル者ハ三百圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十六條 事業主ハ其ノ代理人、戶主、家族、同居者、雇人其ノ他ノ從業者ニシテ其ノ業務ニ關シ本法ニ基キテ發スル命令又ハ之ニ基キテ爲ス處分ニ違反シタルトキハ自己ノ指揮ニ出デザルノ故ヲ以テ其ノ處罰ヲ免ルルコトヲ得ズ

第八篇 其他關係法規

第三十七條 本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ依リ事業主ニ適用スベキ罰則ハ其ノ者ガ法人ナルトキハ理事、取締役其ノ他法人ノ業務ヲ執行スル役員ニ、未成年者又ハ禁治産者ナルトキハ其ノ法定代理人ニ之ヲ適用ス但シ營業ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有スル未成年者ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

附則

第三十八條 本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム(昭和十一年十一月二十八日勅令第四百十三號ヲ以テ同十二年一月一日ヨリ施行)

第三十九條 第十六條又ハ第十七條ノ規定ニ依ル本法適用後ノ最初ノ積立金ニ付テハ勅令ヲ以テ別段ノ規定ヲ設クルコトヲ得

第四十條 勞働者第十六條ノ規定ニ依ル本法適用後ノ積立ノ最初ノ期間中ニ退職其ノ他ノ事由ニ因リ本法ノ適用ヲ受ケザルニ至リタル場合ニ於テハ第二十四條第一項第二號ノ金額ハ本法適用後ノ賃金ノ百分ノ二ニ相當スル金額トス

第四十一條 事業主及勞働者ノ出捐ニ依ル組合ガ本法施行ノ際現ニ退職手當ニ關スル規定ヲ有スル場合ニ於テ事業

主行政官廳ノ許可ヲ受ケタルトキハ第十一條ニ規定スル退職積立金並ニ第十六條及第十七條ニ規定スル退職手當積立金ノ積立ヲ爲サザルコトヲ得

前項ノ組合ガ労働者退職其ノ他ノ事由ニ因リ本法ノ適用ヲ受ケザルニ至ニタル場合ニ支給スベキ金額ヲ支給セザルトキハ事業主ハ組合ノ支給セザル金額ニ相當スル金額ヲ労働者ニ支給スベシ

行政官廳必要アリト認ムルトキハ第一項ノ許可ヲ取消スコトヲ得

第四十二條

事業主本法施行ノ際現ニ使用スル労働者ノ本法施行前ノ勤務ニ對スル退職手當及之ガ支給ニ充ツル爲ノ準備積立金ニ關スル規程ヲ定メ行政官廳ノ許可ヲ受ケタルトキハ第二十條乃至第二十三條及第二十八條第一項ノ規定ハ準備積立金ニ、第二十九條及第三十一條ノ規定ハ退職手當ニ之ヲ準用ス

第四十三條

本法ノ適用ヲ受クル事業ニ於ケル本法適用前ノ退職手當規程ハ本法ノ適用ニ依リ廢止又ハ變更セラルルコトナシ但シ本法適用後ノ勤務ニ對シ本法ニ依ル退職手當ヲ支給スル場合ニ於テハ從前ノ規程ニ依リ支給スベキ退職手當ハ其ノ差額ヲ支給スルヲ以テ足ル

第四十四條 國稅徵收法第十六條ニ左ノ一項ヲ加フ
退職積立金及退職手當法ニ依ル退職手當積立金及準備積立金ニ付亦前項ニ同ジ

第四十五條 郵便貯金法第四條ニ左ノ一號ヲ加フ
五 退職積立金及退職手當法ニ依ル積立金ノ預入金

退職積立金及退職手當法施行令

昭和十一年十一月二十日 昭和十三年一月 一五年七月
八日勅令第四百十四號 勅令第二〇號 第四五四號
一六年三月第 一七四號改正

退職積立金及退職手當法施行令

第一章 總 則

- 第一條 退職積立金及退職手當法ノ賃金ノ範圍ハ當時又ハ定期ニ受クル給與其ノ他ノ利益トス但シ左ニ掲グルモノヲ除ク
- 一 三月ヲ超ユル期間毎ニ支給スル賞與又ハ手當
 - 二 通勤手當
 - 三 住居ニ關スル利益又ハ住宅料ニシテ賃金ノ額ノ決定ニ影響ナキモノ

第三條

退職積立金及退職手當法ノ標準賃金ハ健康保險法施行令第三條乃至第五條ノ規定ニ依リ被保險者ノ標準報酬日額ヲ定ムル方法ニ依リ算定シタル金額トス

前項ノ規定ニ依ル金額ガ負傷、疾病、老衰其ノ他ノ事由ニ因リ從前ニ比シ著シク低額ナルトキハ前項ノ規定ニ拘ラズ從前ノ標準報酬日額其ノ他ヲ斟酌シテ事業主適當ナル金額ヲ定ムベシ

第四條

退職積立金及退職手當法第八條ノ賃金ハ左ノ各號ノ金額ノ合算額トス

- 一 退職積立金及退職手當法第八條ノ期間ノ末日ニ於ケル労働者ノ其ノ期間中ノ賃金
- 二 退職積立金及退職手當法第八條ノ期間中ニ退職（解雇及死亡ヲ含ム以下之ニ同ジ）其ノ他ノ事由ニ因リ同法ノ適用ヲ受ケザルニ至リタル労働者ノ賃金ニシテ退職手當積立金及準備積立金ノ積立ノ基準ト爲シタル金額

第五條

都道府縣又ハ都道府縣ト労働者トノ出捐ニ係ル組合ガ退職積立金及退職手當法ニ準ズル退職積立金又ハ退職手當ニ關スル規程ヲ有スル場合ニ於テハ都道府縣ハ同法第十一條ニ規定スル退職積立金若ハ同法第十六條及第

四 其ノ他厚生大臣ノ指定スルモノ

賃金ノ全部又ハ一部ガ金錢以外ノ給與其ノ他ノ利益ナル場合ニ於テハ其ノ價額ハ健康保險法施行令第二條第一項及第二項ノ規定ニ依リ定ムル標準價格ニ依リ之ヲ算定ス但シ同條第三項ノ規定ニ依リ別段ノ定ヲ爲シタル健康保險組合ノ被保險者タル労働者ニ付テハ其ノ定ニ依リ之ヲ算定ス

第二條

退職積立金及退職手當法又ハ同法ニ基キテ發スル命令ノ規定ニ依リ一定ノ期間中ノ賃金ノ計算ヲ爲ス場合ニ於テハ其ノ期間中ニ支拂ハルベキ賃金ニ依リ之ヲ爲スモノトス

事業主行政官廳ノ許可ヲ受ケタルトキハ労働者ノ各一月ノ賃金ハ前項ノ規定ニ拘ラズ健康保險法施行令第三條乃至第五條ノ規定ニ依ル被保險者ノ標準報酬日額ヲ定ムル方法ニ依リ當該労働者ニ付算定シタル金額ノ三十倍ト爲スコトヲ得此ノ場合ニ於テ一月中當該労働者ニ支拂ハルベキ賃金ナキトキハ其ノ一月ニ於ケル其ノ賃金ハ之ヲナキモノト爲スコトヲ得

行政官廳必要アリト認ムルトキハ前項ノ許可ヲ取消スコトヲ得

第八篇 其の他關係法規

十七條ニ規定スル退職手當積立金ノ積立ヲ爲サズ又ハ同法第十一條若ハ第十六條及第十七條ニ規定スル率ト異ナル率ノ積立ヲ爲スコトヲ得
市町村其ノ他之ニ準ズベキモノ又ハ市町村其ノ他之ニ準ズベキモノト労働者トノ出捐ニ係ル組合ガ退職積立金及退職手當法ニ準ズル退職積立金又ハ退職手當ニ關スル規定ヲ有スル場合ニ於テ市町村其ノ他之ニ準ズベキモノノ行政官廳ノ許可ヲ受ケタルトキ亦前項ニ同ジ
行政官廳必要アリト認ムルトキハ前項ノ許可ヲ取消スコトヲ得

第六條 事業主ハ退職積立金、退職手當積立金

金並ニ退職手當ニ關シ計算ヲ爲ス場合ニ於テ一錢未滿ノ端數アルトキハ之ヲ切捨ツルモノトス

第七條 本令中行政官廳トアルハ工場法ノ適用ヲ受クル工場ニ在リテハ地方長官（東京都ニ在リテハ警視總監以下之ニ同ジ）、鑛業法ノ適用ヲ受クル事業ニ在リテハ鑛山監督局長トス

第二章 退職積立金

第八條 退職積立金トシテ積立ツベキ金額ノ計算ハ豫メ事業主ノ定メタル一月以内ノ一定ノ期間中ノ賃金ニ依リ之

登錄國債ノ方法ニ依リ退職積立金ノ積立ヲ爲ス場合ニ於テハ登錄ノ變更又ハ除却等其ノ登錄國債ニ關スル請求ハ事業主之ヲ爲シ其ノ登錄國債ノ元利金ノ支拂又ハ登錄除却ノ場合ニ於ケル證券ノ引渡ハ日本銀行之ヲ事業主ニ爲スベシ

第十一條 退職積立金ノ積立ハ郵便年金、銀行ヘノ預金又ハ金錢信託ノ方法ニ依ル場合ニ在リテハ通帳又ハ證書ニ退職積立金タルコトノ表示ヲ爲スコトヲ以テ、登錄國債ノ方法ニ依ル場合ニ在リテハ甲種國債登錄簿ニ退職積立金タル旨ノ記載ヲ爲スコトヲ以テ之ヲ爲ス

郵便年金、銀行ヘノ預金又ハ金錢信託ノ方法ニ依ル退職積立金ノ積立ニ付テハ郵便官署、銀行又ハ信託會社其ノ受入又ハ引受ヲ爲シタルトキハ事業主ノ請求ニ依リ通帳又ハ證書ニ退職積立金タルコトノ表示ヲ爲シ尙貯金原簿又ハ之ニ準ズベキ帳簿ニ退職積立金タル旨ノ記載ヲ爲スベシ

第十二條 勞働者退職其ノ他ノ事因ニ因リ退職積立金及退職手當積立金ノ積立ニ付テハ日本銀行ハ事業主ノ請求ニ依リ甲種國債登錄簿ニ退職積立金タル旨ノ記載ヲ爲スベシ

第八篇 其の他關係法規

ヲ爲スモノトス
事業主ハ退職積立金トシテ積立ツベキ金額ヲ前項ノ期間毎ニ其ノ期間中ノ賃金ヨリ控除スベシ但シ其ノ期間中ノ賃金ヨリ控除スルト能ハザルトキハ 次ノ期間中ノ賃金ヨリ控除スルコトヲ得

第九條 退職積立金ノ積立ハ前條第二項ノ規定ニ依ル控除ノ都度遲滞ナク之ヲ爲スベシ但シ行政官廳ノ許可ヲ受ケタルトキハ一定ノ時期ニ取纏メ積立ヲ爲スコトヲ得
行政官廳必要アリト認ムルトキハ前項ノ許可ヲ取消スコトヲ得

第十條 退職積立金ノ積立ハ事業主行政官廳ノ許可ヲ受ケ労働者ノ他ノ財産ト分別シテ郵便年金、銀行ヘノ預金、金錢信託、登錄國債其ノ他確實ナル方法ニ依リ之ヲ爲スベシ
行政官廳必要アリト認ムルトキハ前項ノ許可ヲ取消シ又ハ積立ノ方法ヲ指定スルコトヲ得
郵便年金、銀行ヘノ預金又ハ金錢信託ノ方法ニ依リ退職積立金ノ積立ヲ爲ス場合ニ於テハ其ノ支拂ニ付事業主ノ證明ヲ必要トスル方法ニ依リ之ヲ爲シ通帳又ハ證書ハ事業主之ヲ保管スベシ

職手當法ノ適用ヲ受ケザルニ至リタル場合ニ於テハ事業主ハ労働者ガ退職積立金ノ支拂ヲ受クルニ必要ナル事業主ノ爲スベキ手續ヲ遲滞ナク完了スルコトヲ要ス
前項ノ場合ニ於テ事業主ハ退職積立金ニ關スル表示又ハ記載ノ抹消ヲ請求スベシ

第十三條 事業主ハ労働者退職其ノ他ノ事由ニ因リ退職積立金及退職手當法ノ適用ヲ受ケザルニ至リタル場合ニ於テ其ノ労働者ノ賃金ヨリ控除シタル金額ニシテ積立ヲ爲サザルモノアルトキハ之ヲ支拂フベシ

第三章 退職手當

第十四條 事業主ハ退職積立金及退職手當法第十六條ノ規定ニ依ル退職手當積立金ノ積立ニ關スル計算ノ期間ヲ定メ豫メ行政官廳ニ届出ツベシ
行政官廳必要アリト認ムルトキハ前項ノ計算ノ期間ノ變更ヲ命ズルコトヲ得

第十五條 退職積立金及退職手當法第十六條及第十七條ノ規定ニ依リ積立ツベキ退職手當積立金ノ計算ハ其ノ計算ノ期間中ニ於ケル退職積立金ノ計算ノ期間毎ニ労働者別ニ之ヲ爲スコトヲ得

第十六條 退職積立金及退職手當法第十七條ノ規定ニ依ル

退職手當積立金ノ積立ニ關スル計算ノ期間ハ法人タル事業主ニ在リテハ事業年度、個人タル事業主ニ在リテハ曆年トス

第十七條 退職積立金及退職手當法第十七條ノ規定ニ依リ積立ツベキ退職手當積立金ノ額ハ左ノ各號ヲ標準トスルモノトス

- 一 法人タル事業主ニ在リテハ事業年度ニ於ケル利益配當金額ヲ拂込株金額又ハ出資金額ニ依リ除シタル割合ガ年百分ノ五ヲ超エ年百分ノ七・五以内ナルトキハ賃金ノ百分ノ一、年百分ノ七・五ヲ超エ年百分ノ十以内ナルトキハ賃金ノ百分ノ二、年百分ノ十ヲ超ユルトキハ賃金ノ百分ノ三ニ相當スル金額但シ利益配當金額ガ拂込株金額又ハ出資金額ノ年百分ノ五ノ割合ヲ超ユル金額ノ十分ノ一ヲ限度トスルコトヲ得
- 二 個人タル事業主ニ在リテハ曆年ニ於ケル事業ノ純益金額ガ一萬圓ヲ超エ二萬圓以内ナルトキハ賃金ノ百分ノ一、二萬圓ヲ超エ三萬圓以内ナルトキハ賃金ノ百分ノ二、三萬圓ヲ超ユルトキハ賃金ノ百分ノ三ニ相當スル金額但シ純益金額ノ百分ノ六十ガ六千圓ヲ超ユル金額ノ十分ノ一ヲ限度トスルコトヲ得

前項ノ事業年度ハ當該事業年度又ハ直前ノ事業年度、曆年ハ當該曆年又ハ直前ノ曆年トシ事業主ノ選擇スル所ニ依ル但シ選擇シタル事業年度又ハ曆年ノ労働者ノ不利益ニ之ヲ變更スルコトヲ得ズ

行政官廳事業主ノ爲シタル利益配當金額、純益金額又ハ積立ノ金額ノ算定不當ナリト認ムルトキハ積立ノ金額ヲ更正シテ認可スルコトヲ得

詐偽其ノ他不正ノ行爲ニ因リ認可ヲ受ケタル者ニ對シテハ行政官廳ハ其ノ認可シタル金額ノ變更ヲ命ズルコトヲ得

第十八條 第十一條ノ規定ハ退職手當積立金及準備積立金ニ之ヲ準用ス

第十九條 郵便年金、銀行ヘノ預金、金錢信託又ハ登録國債ノ方法ニ依リ積立ヲ爲シタル退職手當積立金又ハ準備積立金ガ退職手當積立金又ハ準備積立金タザザルニ至リタルトキハ事業主ハ退職手當積立金又ハ準備積立金ニ關スル表示又ハ記載ノ抹消ヲ請求スベシ

第二十條 法人タル事業主ニ在リテハ事業年度、個人タル事業主ニ在リテハ曆年終了後其ノ期間中ニ於ケル賃金、退職手當積立金及準備積立金ノ積立額並ニ賃金ニ對スル

積立額ノ比率ヲ記シタル計算書ヲ所得稅、法人稅、營業稅又ハ臨時利得稅ニ關スル申告ノ際稅務署ニ提出スベシ

第四條ノ規定ハ前項ノ賃金ニ之ヲ準用ス

第二十一條 退職積立金及退職手當法第二十四條第四項又ハ第三十條第四項ノ規定ニ依リ退職手當ヲ受クベキ者ハ労働者ノ配偶者トス

配偶者ナキ場合ニ於テ退職手當ヲ受クベキ者ハ労働者死亡當時之ト同一ノ家ニ在リタル労働者ノ直系卑屬又ハ直系尊屬トシ其ノ順位ハ親等ノ近キモノヲ先ニシ卑屬ト尊屬ト親等相同ジキトキハ卑屬ヲ先ニス

第二十二條 前條第二項ニ定メタル同順位者ノ間ニ在リテハ其ノ順位ハ左ノ規定ニ依ル

- 一 労働者ノ家督相続人又ハ戸主ハ之ヲ他ノ者ヨリ先ニス
- 二 男ハ之ヲ女ヨリ先ニス
- 三 直系卑屬ニ付テハ男又ハ女ノ間ニ在リテハ嫡出子ヲ先ニシ嫡出子、庶子及私生子ノ間ニ在リテハ嫡出子及庶子ハ女ト雖モ之ヲ私生子ヨリ先ニス
- 四 前二號ニ掲グル前項ニ付亦同ジキ者ノ間ニ在リテハ年長者ヲ先ニス

第二十三條 第二十一條ノ規定ニ該當スル者ナキ場合ニ於テハ左ニ掲グル者ノ中一人ニ退職手當ヲ支給スベシ但シ労働者ノ遺言又ハ事業主ニ對シテ爲シタル豫告ニ依リ左ニ掲グル者ノ中一人ヲ特ニ指定シタルトキハ之ニ從フベシ

- 一
- 二 労働者ノ兄弟姉妹ニシテ労働者ノ死亡當時之ト同一ノ家ニ在リタル者
- 三 労働者ノ死亡當時其ノ收入ニ依リ生計ヲ維持シタル者

第四章 退職金審査會

第二十四條 退職金審査會ハ厚生大臣ノ監督ニ屬シ退職積立金ノ支拂又ハ退職手當ノ支給ニ關スル事項ヲ審査ス

第二十五條 退職金審査會ノ管轄區域ハ道府縣ノ區域トシ其ノ名稱及位置ハ厚生大臣之ヲ定ム

第二十六條 退職金審査會ハ會長一人及委員九人以内ヲ以テ之ヲ組織ス

第二十七條 會長ハ地方長官ヲ以テ之ニ充ツ

委員ハ關係官廳高等官又ハ學識經驗アル者ノ中ヨリ厚生大臣之ヲ命ズ

學識經驗アル者ノ中ヨリ命セラレタル委員ノ任期ハ三年トス但シ特別ノ事由アル場合ニ於テハ任期中之ヲ解任スルコトヲ妨ゲズ

第二十八條 會長ハ會務ヲ總理シ會議ノ議長ト爲ル會長事故アルトキハ地方長官ノ指名シタル委員其ノ職務ヲ代理ス

第二十九條 退職金審査會ニ幹事及書記ヲ置ク關係官廳ノ官吏中ヨリ地方長官之ヲ命ズ

幹事ハ會長ノ指揮ヲ承ケ庶務ヲ整理ス書記ハ會長及幹事ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第三十條 審査ハ勞働者退職其ノ他ノ事由ニ因リ退職積立金及退職手當法ノ適用ヲ受ケザルニ至リタル際其ノ使用セラレタル事業ノ所在地ヲ管轄スル退職金審査會ニ於テ之ヲ爲ス

前項ノ事業ノ所在地數府縣ニ互ル場合ニ於テハ之ヲ管轄スル退職金審査會ハ厚生大臣之ヲ指定ス

第三十一條 審査ノ請求ハ請求ノ趣旨ヲ明ニシテ之ヲ爲スベシ

前項ノ請求ハ文書又ハ口頭ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得

第三十二條 審査ハ委員半数以上出席スルニ非ザレバ之ヲ

爲スニトヲ得ズ但シ同一ノ事件ニ付招集再回ニ及ブ場合ハ此ノ限ニ在ラズ

第三十三條 審査ハ出席委員ノ過半数ヲ以テ之ヲ決ス可否同數ナルトキハ議長ノ決スル所ニ依ル

第三十四條 審査ハ之ヲ公開セズ

第三十五條 勞務監督官、職務監督官其ノ他ノ關係官吏ハ退職金審査會ノ請求ニ依リ又ハ其ノ承認ヲ受ケ會議ニ出席シ意見ヲ述ブルコトヲ得

第三十六條 審査請求人又ハ關係人ハ退職金審査會ノ請求ニ依リ又ハ其ノ承認ヲ受ケ事件ニ關スル説明ヲ爲スコトヲ得

第三十七條 退職金審査會審査ノ請求ヲ受ケタル場合ニ於テ其ノ事件ガ管轄遷ナルトキハ會長ハ之ヲ所轄退職金審査會ニ移送スベシ

第三十八條 審査ノ決定ハ理由ヲ附シ文書ヲ以テ之ヲ爲スベシ

第三十九條 退職金審査會ハ前條ノ決定書ノ謄本ヲ作成シ遅滞ナク之ヲ審査請求人ニ交付スベシ

審査請求人ニ對シ決定書ノ謄本ヲ交付スルコト能ハザルトキハ退職金審査會ハ其ノ決定書ノ謄本ヲ揭示板ニ揭示

スベシ

第四十條 審査請求人審査ノ決定前ニ死亡シタルトキハ其ノ承繼人ニ於テ審査請求手續ヲ受繼グモノトス

附 則

本令ハ退職積立金及退職手當法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス(昭和十二年一月一日ヨリ施行)

退職積立金及退職手當法適用後初テ第八條第二項ノ規定ニ依リ賃金ヨリ控除スベキ額ハ同法適用後ノ勤務ニ對スル賃金ニ依リ之ヲ計算スルコトヲ得

退職積立金及退職手當法適用後初テ同法第十六條及第十七條ノ規定ニ依リ積立ツベキ退職手當積立金ノ額ハ同法適用後ノ勤務ニ對スル賃金ニ依リ之ヲ計算スルコトヲ得

退職積立金及退職手當法施行規則

昭和十一年十一月三十日
日內務省令第四十六號

退職積立金及退職手當法施行規則左ノ通定ム

退職積立金及退職手當法施行規則

第八篇 其の他關係法規

一 爲スニトヲ得ズ但シ同一ノ事件ニ付招集再回ニ及ブ場合ハ此ノ限ニ在ラズ

第三十三條 審査ハ出席委員ノ過半数ヲ以テ之ヲ決ス可否同數ナルトキハ議長ノ決スル所ニ依ル

第三十四條 審査ハ之ヲ公開セズ

第三十五條 勞務監督官、職務監督官其ノ他ノ關係官吏ハ退職金審査會ノ請求ニ依リ又ハ其ノ承認ヲ受ケ會議ニ出席シ意見ヲ述ブルコトヲ得

第三十六條 審査請求人又ハ關係人ハ退職金審査會ノ請求ニ依リ又ハ其ノ承認ヲ受ケ事件ニ關スル説明ヲ爲スコトヲ得

第三十七條 退職金審査會審査ノ請求ヲ受ケタル場合ニ於テ其ノ事件ガ管轄遷ナルトキハ會長ハ之ヲ所轄退職金審査會ニ移送スベシ

第三十八條 審査ノ決定ハ理由ヲ附シ文書ヲ以テ之ヲ爲スベシ

第三十九條 退職金審査會ハ前條ノ決定書ノ謄本ヲ作成シ遅滞ナク之ヲ審査請求人ニ交付スベシ

審査請求人ニ對シ決定書ノ謄本ヲ交付スルコト能ハザルトキハ退職金審査會ハ其ノ決定書ノ謄本ヲ揭示板ニ揭示

第一條 退職積立金及退職手當法(以下法ト稱ス)第一條ノ規定ニ依リ法ノ適用ヲ受クルニ至リタル事業ノ事業主ハ左リ掲グル事項ヲ十日以内ニ地方長官(東京都ニ在リテハ警視總監以下之ニ同ジ)ニ届出ツベシ第一號又ハ第二號ノ事項ニ變更アリタルトキハ其ノ事項ニ付亦同ジ

- 一 事業ノ名稱種類及所在地
- 二 事業主ノ氏名及住所(法人タル事業主ニ在リテハ其ノ名稱、主タル事務所ノ所在地及代表者氏名ノ以下之ニ同ジ)
- 三 常時使用勞働者數
- 四 法ノ適用ヲ受クルニ至リタル年月日

第二條 事業主其ノ事業ヲ廢止シタルトキハ直ニ其ノ旨ヲ地方長官ニ届出ツベシ

第三條 法第二條ノ届出ハ左ニ掲グル事項ヲ具シ地方長官ニ之ヲ爲スベシ

- 一 事業ノ名稱、種類及所在地
- 二 事業主ノ氏名及住所
- 三 常時使用勞働者數
- 四 法ノ適用ヲ受ケザルニ至リタル事由
- 五 退職積立金及退職手當積立金ノ現在高竝ニ退職手當

及之ガ支給ニ充ツル爲ノ準備積立金ニ關スル規程ヲ有
スルモノニ在リテハ準備積立金ノ現在高及支給スベキ
退職手當ノ金額

第四條 法第三條第一項ノ許可ノ申請ハ退職積立金、退職
手當積立金又ハ退職手當及之ガ支給ニ充ツル爲ノ退職積
立金ニ關スル規程ノ外左ニ掲グル事項ヲ具シ地方長官ニ
之ヲ爲スベシ

- 一 事業ノ名稱、種類及所在地
- 二 事業主ノ氏名及住所
- 三 常時使用労働者數

法第三條第二項ノ許可ノ申請ハ前項各號ノ事項ノ外左ニ
掲グル事項ヲ具シ地方長官ニ之ヲ爲スベシ

- 一 規程ヲ廢止又ハ變更セントスル理由
- 二 規程ヲ廢止セントスル場合ハ其ノ廢止ニ關スル規程
及前條第五號ノ事項、規程ヲ變更セントスル場合ハ其
ノ規程

第五條 營業ノ讓渡其ノ他ノ事由ニ因リ事業ノ承繼アリタ
ル場合ニ於テ労働者ノ全部ガ引續キ承繼人ニ使用セラル
ルトキハ積立金ノ全部ニ付労働者ノ一部ガ引續キ承繼人
ニ使用セラルルトキハ左ノ各號ノ積立金ニ付從前ノ事業

主及承繼人ハ名義ノ變更其ノ他必要ナル手續ヲ爲スベシ
一 引續キ承繼人ニ使用セラルル労働者ニ屬スル退職積
立金

二 退職手當積立金中労働者別ニ計算ヲ明ニシタルモノ
ニ付テハ引續キ承繼人ニ使用セラルル労働者ノ計算ニ
屬スル金額

三 退職手當積立金中特別手當積立金トシテ保留シタル
モノニ付テハ各労働者ノ標準賃金ニ之ヲ按分シ引續キ
承繼人ニ使用セラルル労働者ニ付得タル金額

四 準備積立金ニ付テハ各労働者ノ標準賃金ニ勤続年數
ヲ乘ジタル額ニ之ヲ按分シ引續キ承繼人ニ使用セラル
ル労働者ニ付得タル金額

前項ノ場合ニ於テ労働者ノ一部ガ引續キ承繼人ニ使用セ
ラルルトキハ法第十九條第二項又ハ法第二十八條ノ規定
ニ依リ計算又ハ積立ハ事業ノ承繼アリタル日ヲ以テ計算
又ハ積立ノ期日到來シタルモノト看做シ之ヲ爲スベシ法
第三十條第四項又ハ法第四十二條ノ規定ニ依リ法第二十
八條第一項ノ規定ヲ準用スル場合亦同ジ

第六條 承繼人ハ從前ノ事業主トノ連署ヲ以テ左ニ掲グル
事項ヲ事業ノ承繼アリタル日ヨリ十日以内ニ地方長官ニ

届出ツベシ連署スルコト能ハザルトキハ其ノ旨ヲ附記ス
ベシ

- 一 事業ノ名稱、種類及所在地
- 二 事業主(事業ノ承繼人及從前ノ事業主)ノ氏名及住
所
- 三 事業ノ承繼ノ事由及全部承繼又ハ一部承繼ノ別
- 四 引續キ承繼人ニ使用セラルル労働者數
- 五 承繼シタル積立金

第七條 退職積立金及退職手當法施行令(以下令ト稱ス)

第二條第二項ノ許可申請書ニハ左ニ掲グル事項ヲ記載ス
ベシ

- 一 事業ノ名稱、種類及所在地
 - 二 事業主ノ氏名及住所
 - 三 使用労働者現在數
 - 四 標準報酬日額ノ平均額
 - 五 労働者一人當リ一日ノ勞務ニ對スル賃金ノ平均額
 - 六 報酬日額四圓ヲ超ユル労働者數
- 第八條** 事業主ハ毎年二月十五日迄ニ前年ニ於ケル退職積
立金、退職手當積立金及準備積立金ノ積立並ニ退職積立
金ノ支拂及退職手當又ハ之ニ代ルベキモノノ支給ノ状況

第八篇 其他關係法規

ヲ地方長官ニ届出ツベシ

第九條 法ノ適用ヲ受クル事業ガ事業ノ廢止其ノ他ノ事由
ニ因リ法ノ適用ヲ受ケザルニ至リタル場合ハ事業主ハ遅
滯ナク退職積立金ノ支拂及退職手當ノ受給ヲ完了シタル
上其ノ願末ヲ地方長官ニ届出ツベシ

第十條 令第五項第二項ノ許可申請書ニハ左ニ掲グル事項
ヲ記載スベシ

- 一 事業ノ名稱、種類及所在地
 - 二 事業經營ノ主體
 - 三 常時使用労働者數
 - 四 退職積立金又ハ退職手當ニ關スル規程
 - 五 組合ノ組織(組合格約又ハ之ニ準ズベキモノヲ添附
スルコト)
 - 六 退職積立金ニ代ルベキ事項
 - 七 退職手當ノ支給ニ代ルベキ事項
- 令第五條第二項ノ規定ニ依リ許可ヲ受ケタルモノハ前項
第四號乃至第七號ノ事項ニ變更アリタルトキハ其ノ事項
ヲ遲滯ナク地方長官ニ届出ツベシ
- 第十一條** 事業主ハ退職積立金臺帳ヲ調製シ労働者別ニ左
ニ掲グル事項及其ノ年月日ヲ記載スベシ

- 一 退職積立金トシテ免除シタル金額
- 二 退職積立金トシテ積立テタル金額
- 三 退職積立金ヨリ生ジタル利子
- 四 積立方法別金額
- 五 退職積立金ヲ運用シタル金額及退職積立金ヘ積戻シタル金額

第十二條 法第十一條第二項ノ許可ノ申請ハ左ニ掲グル事項ヲ具シ地方長官ニ之ヲ爲スベシ

- 一 事業ノ名稱、種類及所在地
- 二 事業主ノ氏名及住所
- 三 災害其ノ他已ムヲ得ザル事由ノ具體的事項及積立ノ程度

第十三條 法第十三條第一項ノ許可ノ申請ハ左ニ掲グル事項ヲ具シ地方長官ニ之ヲ爲スベシ

- 一 事業ノ名稱、種類及所在地
- 二 事業主ノ氏名及住所
- 三 運用セントスル金額及期間
- 四 支拂又ハ積戻ノ確保ニ關スル方法
- 五 利率

第十四條 法第十三條第二項又ハ第三項ノ規定ニ依リ供託

ヲ命ゼラレタル事業主ハ事業ノ所在地ニ於テ供託ヲ爲スベシ前項ノ事業主供託ヲ爲シタルトキハ供託國債受入ノ記載アル供託書ノ寫ヲ添附シ遲滞ナク其ノ旨ヲ地方長官ニ届出ヅベシ

地方長官法第十三條第四項ノ權利ノ實行ニ關シ必要アリト認ムルトキハ供託國債受入ノ記載アル供託書又ハ退職積立金ニ關スル帳簿ノ提出ヲ命ズルコトヲ得

第十五條 事業主ハ退職手當積立金臺帳ヲ調製シ左ニ掲グル事項及其ノ年月日ヲ記載スベシ

- 一 法第十六條ノ規定ニ依リ退職手當積立金トシテ積立テタル金額
- 二 法第十七條ノ規定ニ依リ退職手當積立金トシテ積立テタル金額
- 三 退職手當積立金ヨリ生ジタル利子及餘利ヲ積立テタル金額
- 四 退職手當積立金中ヨリ退職手當トシテ支給シタル金額
- 五 積立方法別金額
- 六 退職手當積立金ヲ運用シタル金額及退職手當積立金ヘ積戻シタル金額

第十六條 事業主ハ退職手當積立金勞働者別明細簿ヲ調製シ勞働者毎ニ法第十六條、法第十七條及法第十九條ノ積立金（法第二十八條ノ積立金ヲ含ム）別ニ積立テタル金額及其ノ年月日ヲ記載スベシ

第十七條 事業主ハ特別手當積立金明細簿ヲ調製シ特別手當積立金トシテ保留シタル金額、特別手當トシテ支給シタル金額及退職手當積立金ニ充當シタル金額並ニ其ノ年月日ヲ記載スベシ

第十八條 第十二條ノ規定ハ法第十六條第二項ノ許可ノ申請ノ場合ニ之ヲ準用ス

第十九條 法第十七條ノ認可ノ申請ハ法人タル事業主ニ在リテハ當該事業年度、個人タル事業主ニ在リテハ當該曆年終了後一月以内ニ地方長官ニ之ヲ爲スベシ但シ已ムヲ得ザル事由アルトキハ此ノ限ニ在ラズ

前項ノ認可ノ申請ハ當該事業年度又ハ曆年終了前ニ豫メ之ヲ爲スコトヲ得

第二十條 前條第一項ノ認可申請書ニハ左ニ掲グル事項ヲ記載スベシ

- 一 事業ノ名稱、種類及所在地
- 二 事業主ノ氏名及住所

三 期間末ニ於ケル勞働者數及其ノ期間中ノ賃金ノ額

四 積立テナントスル退職手當積立金ノ金額及前號ノ賃金ノ額ニ對スル割合

五 法人タル事業主ニ在リテハ事業年度ニ於ケル拂込株金額又ハ出資金額、利益配當金額及利益配當金額ヲ拂込株金額又ハ出資金額ニ依リ除シタル年割合、個人タル事業主ニ在リテハ曆年ニ於ケル事業ノ純益金額

前條第二項ノ認可申請書ニハ前項第一號及第二號ノ事項並ニ退職手當積立金ノ額ヲ定ムル標準ヲ記載スベシ

第二十一條 事業主第十九條第二項ノ規定ニ依リ法第十七條ノ認可ヲ受ケタル場合ハ法人タル事業主ニ在リテハ當該事業年度、個人タル事業主ニ在リテハ當該曆年終了後遲滞ナク前條第一項各號ノ事項ヲ地方長官ニ届出ヅベシ

第二十二條 法第十七條但書ノ許可ノ申請ハ第二十一條第一項第一號乃至第三號及第五號ノ事項ヲ具シ地方長官ニ之ヲ爲スベシ

第二十三條 法第十八條但書ノ許可ノ申請ハ左ニ掲グル事項ヲ具シ地方長官ニ之ヲ爲スベシ

- 一 事業ノ名稱、種類及所在地
- 二 事業主ノ氏名及住所

三 勞働者別計算ノ標準

第二十四條 事業主ハ豫メ法第十九條第二項ノ一定ノ計算期ヲ定メ地方長官ニ届出ツベシ

前項ノ計算期ハ毎年一回以上タルコトヲ要ス
法第十九條第一項ノ退職手當積立金ニシテ勞働者別ニ計算ヲ明ニセザル金額ハ當該計算期ニ於ケル勞働者ノ直前ノ計算期ニ於テ勞働者別ニ計算ノ明ナル退職手當積立金ノ額及直前ノ計算期ニ於ケル特別手當積立金ノ額ニ之ヲ按分シテ計算ヲ明ニスベシ

第二十五條 第十三條ノ規定ハ法第二十一條第一項ノ許可ノ申請ノ場合ニ之ヲ準用ス

第二十六條 第十四條ノ規定ハ法第二十一條第二項、法第三十條第四項又ハ法第四十二項ノ規定ニ依リ法第十三條第二項乃至第五項ノ規定ヲ準用スル場合ニ之ヲ準用ス

第二十七條 勞働者左ノ各號ノ一ニ該當スル事由ニ因リ解雇セラレタルトキハ法第二十四條第一項ノ退職手當ハ之ヲ支給セザルコトヲ得

一 重要ナル經歷ヲ詐リ其ノ他詐術ヲ用ヒテ雇傭セラレタルコト

二 營業ノ秘密ヲ漏洩シ又ハ漏洩セントシタルコト明ナルコト

退職シタルトキハ法第二十四條第一項ノ退職手當ハ之ヲ支給セザルコトヲ得

勞働者勤績三年以上ニシテ自己ノ都合ニ依リ退職シタルトキハ法第二十四條第一項ノ退職手當ハ之ヲ減額シテ支給スルコトヲ得但シ二分ノ一ヲ超エテ減額スルコトヲ得ズ

勞働者退職ヲ申出デタル場合ト雖モ左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ前二項ノ規定ハ之ヲ適用セズ

一 負傷、疾病又ハ老衰ノ爲業務ニ堪ヘザルトキ

二 就業規則又ハ之ニ準ズベキモノニ依リ定ムル停年ニ達シタルトキ

三 陸海軍ニ徵集又ハ召集セラレタルトキ

四 女子勞働者ガ結婚スルトキ

五 其ノ他己ムヲ得ザル事由アルトキ

第二十八條 勞働者禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルニ依リ又ハ第二十七條各號若ハ第二十八條第一項各號ノ一ニ該當スル事由ニ因リ解雇セラレタルトキハ法第二十六條第一項ノ特別手當ハ之ヲ加算スルコトヲ要セズ

第二十九條 法第二十七條第一項ノ許可ノ申請ハ左ニ掲グル事項ヲ具シ地方長官ニ之ヲ爲スベシ

第八篇 其他關係法規

ルコト

三 故意ニ事業ノ設備又ハ器具ヲ破壊シタルコト

四 正當ノ理由ナクシテ無斷缺勤引續キ十四日以上ニ及ビタルコト

第二十八條 勞働者勤績三年以上未滿ニシテ左ノ各號ノ一ニ該當スル事由ニ因リ解雇セラレタルトキハ法第二十四條第一項ノ退職手當ハ之ヲ支給セザルコトヲ得

一 事業ノ風紀ヲ甚シク紊シタルコト

二 素行著シク不良ナルコト

三 戒告數回ニ及ブモ仍出勤常ナラザルコト

四 戒告數回ニ及ブモ仍怠慢ニシテ勞務ニ不熱心又ハ勞務ニ就カザルコト

五 其ノ他前各號ニ準ズル程度ノ特ニ不都合ナル行爲アリタルコト

勞働者勤績三年以上十年未滿ニシテ前項各號ノ一ニ該當スル事由ニ因リ解雇セラレタルトキハ法第二十四條第一項ノ退職手當ハ之ヲ減額シテ支給スルコトヲ得但シ二分ノ一ヲ超エテ減額スルコトヲ得ズ

第二十九條 勞働者勤績三年以上未滿ニシテ自己ノ都合ニ依リ

一 事業ノ名稱、種類及所在地

二 事業主ノ氏名及住所

三 常時使用勞働者數

四 特別手當積立金ノ限度ト爲サントスル金額

五 健康保險法ニ依リ使用勞働者ニ付定メタル標準報酬日額ノ合計額

法第二十七條第一項ノ許可ヲ受ケタル事業主ハ常時使用勞働者數ニ著シキ増加アリタルトキハ前項第三號及第五號ノ事項ヲ地方長官ニ届出ツベシ

第三十二條 第二十四條第三項ノ規定ハ法第二十八條第一項ノ規定ニ依リ餘利ヲ積立ツル場合ニ之ヲ準用ス

第三十三條 法第三十條第一項ノ許可ノ申請ハ退職手當及之ガ支給ニ充ツル爲ノ準備積立金ニ關スル規程ノ外左ニ掲グル事項ヲ具シ地方長官ニ之ヲ爲スベシ

一 事業ノ名稱、種類及所在地

二 事業主ノ氏名及住所

三 常時使用勞働者數

法第三十條第二項ノ許可ノ申請ハ前項各號ノ事項ノ外左ニ掲グル事項ヲ具シ地方長官ニ之ヲ爲スベシ

一 規程ヲ廢止又ハ變更セントスル理由

二 規程ヲ廢止セントスル場合ハ其ノ廢止ニ關スル規程及準備積立金ノ現在高、規程ヲ變更セントスル場合ハ其ノ規程

第三十四條 第二十七條乃至第三十條ノ規定ハ法第三十條第三項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第三十五條 第十三條ノ規定ハ法第三十條第四項又ハ法第四十二條ノ規定ニ依リ法第二十一條ノ規定ヲ準用スル場合ニ之ヲ準用ス

第三十六條 第二十四條第一項及第二項ノ規定ハ法第三十條第四項ノ規定ニ依リ法第二十八條第一項ノ規定ヲ準用スル場合ニ之ヲ準用ス

第三十七條 法第四十一條第一項ノ許可ノ申請ハ左ニ掲グル事項ヲ具シ地方長官ニ之ヲ爲スベシ

- 一 事業ノ名稱、種類及所在地
- 二 事業主ノ氏名及住所
- 三 常時使用労働者數
- 四 退職手當ニ關スル規程
- 五 組合ノ組織(組合格約又ハ之ニ準ズベキモノヲ添付スルコト)
- 六 退職積立金ニ代ルベキ事項

第四十條 事業主ハ退職積立金及退職手當ニ關スル事項ノ要領ヲ平易ニ記述シ適宜ノ方法ヲ以テ之ヲ労働者ニ周知セシムベシ

第四十一條 第十一條、第十五條乃至第十七條又ハ第三十九條ノ帳簿ハ之ヲ合併スルコトヲ妨グズ

第四十二條 退職積立金及退職手當ニ關スル帳簿其ノ他重要ナル書類ハ事業毎ニ之ヲ備置クベシ

前項ノ帳簿又ハ書類ハ退職積立金及退職手當ニ關スル事業主ノ義務ヲ完了シタル日ヨリ三年間之ヲ保存スベシ

第四十條 事業主ハ法又ハ法ニ基ク命令ノ規定ニ依リ事業主ノ爲スベキ事項ニ付豫メ代理人ヲ選任シタルトキハ其ノ旨ヲ地方長官ニ届出ヅベシ

第四十四條 本令中地方長官トアルハ鑛業法ノ適用ヲ受クル事業ニ在リテハ鑛山監督局長トス

第四十五條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

- 一 第一條、第二條、第六條、第九條、第十四條第二項(第二十六條ニ於テ準用スル場合ヲ含ム)、第二十一條、第二十四條第一項(第三十六條ニ於テ準用スル場合ヲ含ム)、

七 退職手當ノ支給ニ代ルベキ事項
法第四十一條第一項ノ許可ヲ受ケタル事業主ハ前項第四號乃至第七號ノ事項ニ變更アリタルトキハ其ノ事項ヲ遅滞ナク地方長官ニ届出ヅベシ

第三十八條 法第四十二條ノ許可ノ申請ハ退職手當及之ガ支給ニ充ツル爲ノ準備積立金ニ關スル規程ノ外左ニ掲グル事項ヲ具シ地方長官ニ之ヲ爲スベシ

一 事業ノ名稱、種類及所在地
二 事業主ノ氏名及住所
三 常時使用労働者數
四 法施行前ヨリ引續キ使用スル労働者數

第三十九條 事業主ハ準備積立金臺帳ヲ調製シ左ニ掲グル事項及其ノ年月日ヲ記載スベシ

- 一 準備積立金トシテ積立テタル金額
- 二 準備積立金ヨリ生ジタル利子及餘利ヲ積立テタル金額
- 三 準備積立金中ヨリ退職手當トシテ支給シタル金額
- 四 積立方法別金額
- 五 準備積立金ヲ運用シタル金額及準備積立金へ積戻シタル金額

第三十一條第二項又ハ第三十七條第二項ノ規定ニ依リ届出ヲ怠リ又ハ其ノ届出ニ虚偽ノ記載ヲ爲シタル者

第五條ノ規定ニ依リ手續ヲ怠リタル者
第十一條、第十五條乃至第十七條又ハ第三十九條ノ規定ニ依リ帳簿ノ調製若ハ記載ヲ怠リ又ハ虚偽ノ記載ヲ爲シタル者

第十四條第三項(第二十六條ニ於テ準用スル場合ヲ含ム)ノ規定ニ依リ命令ニ從ハザル者

第四十條又ハ第四十二條ノ規定ニ違反シタル者

附 則
本令ハ法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス(昭和十二年一月一日ヨリ施行)

入營者職業保障法

昭和六年四月二日 改正昭和十三年四月
法律第五十七號 年法律第六十二號

第一條 何人ト雖モ被傭者ヲ求メ又ハ求職者ノ探否ヲ決スル場合ニ於テ入營(應召ノ場合ヲ含ム以下之ニ同ジ)ヲ命ゼラレタル者又ハ入營ヲ命ゼラレタコトアルベキ者ニ

對シ其ノ故ヲ以テ不利益ナル取扱ヲ爲スベカラズ

第二條 雇傭者ハ入營ヲ命ゼラレタル被傭者ヲ解雇シタルトキ又ハ被傭者ノ入營中雇傭期間ノ滿了シタルトキハ其ノ者ガ退營（入營ノ際行フ身體検査ノ結果歸郷ヲ命ゼラレタル場合ヲ含ム）シタル日ヨリ三月以内ニ更ニ之ヲ雇傭スルコトヲ要ス但シ左ノ各號ニ掲グル事由ノ一ニ該當シタルニ因リ解雇シ又ハ現ニ左ノ各號ニ掲グル事由ノ一ニ該當スル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

一 被傭者ガ入營ノ日ヨリ陸軍ニ在リテハ二年、海軍ニ在リテハ三年ヲ超ユル期間服役ヲ志願シ採用セラレタルトキ

二 被傭者ガ第二項ニ規定スル通知ヲ爲サズ又ハ雇傭者ヨリ同項ニ規定スル通知ニ於テ勞務ニ就クベキ旨ヲ指定セラレタル日ヨリ故ナク二十日以内ニ勞務ニ就カザルトキ

三 被傭者ガ疾病又ハ傷疾ニ因リ勞務ニ堪ヘザルトキ

四 被傭者ガ著シク其ノ職務ヲ怠リタルトキ

五 被傭者ニ著シキ不良行爲アリタルトキ

六 雇傭ノ目的タル事業ノ廢止、終了又ハ著シキ整理縮少其ノ他之ニ準ズル事由アルトキ

雇傭者及被傭者ハ命令ノ定ムル所ニ依リ前項ニ規定スル雇傭ニ關シ必要ナル事項ヲ相互ニ通知スルコトヲ要ス雇傭者ハ第一項各號ニ掲グル場合ヲ除クノ外同項ノ規定ニ依リ雇傭シタル被傭者ヲ其ノ雇傭ノ日ヨリ三日以内ニ於テ民法第六百二十七條又ハ第六百二十八條ノ規定ニ依リ解雇スルコトヲ得ズ

第三條 前條第一項ノ規定ニ依リ入營者ヲ雇傭スル場合ニ於テ之ニ與フベキ勞務及給與ハ少クトモ其ノ者ノ入營直前ノ勞務及給與ト同等ノモノナルコトヲ要ス但シ被傭者ガ疾病又ハ傷疾ニ因リ入營直前ノ勞務ニ堪ヘザルトキ其ノ他已ムヲ得サル事由アルトキハ之ト異ル勞務及給與ヲ與フルコトヲ妨ゲズ

第四條 前二條ノ規定ハ入營ヲ命ゼラレタル被傭者ガ解雇セラレザル場合ニ於ケル退營後ノ復職及取扱ニ他之ヲ準用ス

第五條 前三條ノ規定ハ雇傭者ガ當時三十人以上ノ被傭者ヲ使用スル場合ニ之ヲ適用ス

第五條ノ二 職業紹介事業ヲ行フ行政廳（船員職業紹介法第三條第二項ノ規定ニ依リ船員職業紹介事業ヲ行フ者ヲ含ム）ハ退營者ニシテ原職ナキモノ又ハ原職ニ復歸スル

第一條 入營者職業保障法第六條第二項ニ規定スル官吏又ハ公吏左ノ如シ

一 國ノ被傭者ニ關スル勸解ニ付テハ當該被傭者ヲ雇傭シタル者ノ直接上級ノ監督官廳又ハ直接上級ノ部局ノ長但シ朝鮮總督、臺灣總督又ハ樺太廳長官ノ雇傭シタル者ニ關スル勸解ニ付テハ朝鮮總督、臺灣總督又ハ樺太廳長官ノ定ムル官吏

二 都道府縣又ハ市町村ノ被傭者ニ關スル勸解ニ付テハ當該被傭者ヲ雇傭シタル者ノ直接上級ノ監督官廳又ハ直接上級ノ部局ノ長

三 前二號ノ適用アル場合ヲ除キ船員法ノ適用アル船員ニ關スル勸解ニ付テハ通信局長（朝鮮船員令ノ適用アル船員ニ關スル勸解ニ付テハ朝鮮總督府通信局長）又ハ船員法第四十五條ノ規定ニ依リ管海官廳ノ事務ヲ行フ市町村長、鑛業法ノ適用アル鑛業又ハ砂鑛業ニ從事スル鑛夫ニ關スル勸解ニ付テハ鑛山監督局長又ハ第四號ニ掲グル官吏若ハ公吏

四 前三號ニ掲グル者以外ノ被傭者ニ關スル勸解ニ付テハ地方長官、市町村長又ハ職業紹介所長

第二條 本令中都道府縣、市町村又ハ地方長官、市町村長

ト困難ナリト認ムルモノノ職業紹介ニ付テハ被傭者ヲ求メントスル者ニ對シ其ノ雇傭者タルニ適スト認ムル退營者ヲ優先シテ雇傭スルコトヲ從源スルコトヲ得

前項ノ規定ハ退營者ガ退營シタル日ヨリ三月ヲ經過シタル場合ニハ之ヲ適用セズ

第六條 當該官吏又ハ公吏ハ第二條乃至第五條ノ規定ノ施行ニ關シ必要アリト認ムルトキハ當事者ニ對シ勸解ヲ爲スコトヲ得

前項ノ當該官吏又ハ公吏ノ範圍ハ勸令ヲ以テ之ヲ定ム

第七條 本法ノ適用ニ付テハ國、都道府縣、市町村其ノ他之ニ準ズルモノノ被傭者ニシテ官吏又ハ公吏ニ準ジ取扱フコトヲ要スル者ニ付勸令ヲ以テ別段ノ定ヲ爲スコトヲ得

附 則

本法施行ノ期日ハ勸令ヲ以テ之ヲ定ム（昭和六年勸令第二百六十號ヲ以テ昭和六年十一月一日ヨリ施行ス）

入營者職業保障法施行令

昭和六年十月三十日 改正昭和十三年三月 勸令第二百六十一號 勸令第三百三十五號

第八篇 其の他關係法規

ニ關スル規定ハ都道府縣、市町村又ハ地方長官、市町村長ニ準ズルモノニ之ヲ適用ス

附 則

本令ハ入營者職業保障法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス（昭和六年十一月一日ヨリ施行）

入營者職業保障法施行規則

昭和六年十月三十一日內 改正 昭和十七年二月厚生、務、陸軍、海軍、通信省令 陸軍、海軍、通信省令第一號

第一條 被備者（入營者職業保障法ノ適用アル被備者ヲ謂

フ以下之ニ同ジ）ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ遲滯ナク其ノ旨ヲ書面ヲ以テ履備者ニ通知スベシ

一 入營スベキ期日及部隊定マリタルトキ

二 入營ノ日ヨリ陸軍ニ在リテハ二年、海軍ニ在リテハ三年ヲ超ユル期間服役ヲ志願シ採用セラレタルトキ

三 傷疾疾病其ノ他ノ事由ニ因リ退營後再ビ履備セララルコト又ハ復職スルコトヲ希望セザルトキ

第二條 被備者ハ退營豫定期日前三月ヨリ退營後二十日以内（入營又ハ應召ノ際行フ身體検査ノ結果歸郷ヲ命ゼラ

レタル者並ニ臨時退職ヲ命ゼラレタル者ニ在リテハ退營後二十日以内）ニ左ノ事項ヲ書面ヲ以テ履備者ニ通知スベシ

一 退營豫定期日又ハ退營シタル日

二 退營後再ビ勞務ニ就キ得ベキ豫定期日

三 退營後ノ受信場所

被備者前項ノ通知ヲ爲シタル後退營豫定期日ニ變更アリタルトキ又ハ前項第二號及第三號ノ事項ヲ變更スル必要ヲ生ジタルトキハ遲滯ナク之ヲ履備者ニ通知スベシ

第三條 被備者ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル事由ニ因リ履備

者ヨリ勞務ニ就クベキ旨ヲ指定セラレタル日ヨリ二十日以内ニ勞務ニ就クコト能ハザルトキハ速ニ其ノ事由ヲ書面ヲ以テ履備者ニ通知スベシ

一 疾病ニ依リ又ハ傷疾ヲ受ケタルトキ

二 直系尊屬、妻又ハ直系卑屬ガ死亡シタルトキ又ハ重態ナルトキ

三 本人ト同一戸籍又ハ同一世帯内ニ在ル者死亡シ他ニ後始末ヲ爲ス者ナキトキ

四 本人ト同一戸籍又ハ同一世帯内ニ在ル者重態ニシテ他ニ看護ヲ爲ス者ナキトキ

五 本人ノ住家ノ火災、流失又ハ倒壊其ノ他重大ナル災害ヲ蒙リ他ニ後始末ヲ爲ス者ナキトキ

六 其ノ他前各號ニ掲グル事由ニ準ズル已ムヲ得ザル事由アルトキ

第四條 履備者ハ第二條第一項ノ通知ヲ受ケタルトキハ遲滯ナク左ノ事項ヲ書面ヲ以テ被備者ニ通知スベシ

一 再ビ勞務ニ就カシメ得ベキ期日

二 入營直前ノ勞務又ハ給與ト異ナル勞務又ハ給與ヲ與フル場合ニ於テハ當該事項

三 其ノ他必要ト認ムル事項

第五條 履備者ハ入營者職業保障法第二條第一項第二號乃至第六號ノ一ニ該當スル事由ニ因リ被備者ヲ解雇シタル

トキ又ハ被備者ヲ再履備若ハ復職セシメ得ザルトキハ遲滯ナク其ノ事由ノ要旨ヲ書面ヲ以テ被備者ニ通知スベシ

第六條 履備者ハ地方長官（船員法ノ適用アル船員ニ付テハ所轄海務局長）ニ對シ遲滯ナク左ノ事項ヲ書面ヲ以テ

届出ヅベシ

一 被備者ニシテ入營ヲ命ゼラレタル者アルトキハ其ノ氏名、住所、勞務及給料

二 第四條又ハ第五條ノ規定ニ依リ通知シタル事項

第八篇 其の他關係法規

前項第一號ノ届出ニハ事業ノ種類及被備者ノ總數ヲ附記スベシ

第七條 履備者又ハ被備者ニシテ入營者職業保障法第六條

ノ規定ニ依リ勸解ヲ求メントスル者ハ入營者職業保障法施行令ノ定ムル所ノ當該官吏又ハ公吏ニ書面又ハ口頭ヲ以テ甲出ヅベシ

附 則

本令ハ入營者職業保障法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス（昭和六年十一月一日ヨリ施行ス）

附

録

一、
二、
三、
四、
五、
六、
七、
八、
九、
十、

一、
二、
三、
四、
五、
六、
七、
八、
九、
十、

工場法關係諸願届及工場備付書類簿冊一覽表

(小野崎武夫著 工場實務提要ニ據ル)

工場法關係諸願届 (凡 一、本表中「法」ハ工場法「令」ハ工場法令施行令「規」ハ工場法施行規則「細」ハ工場法施行細則ヲ指ス 二、〇印ハ當時五十人以上ノ職工使用工場ニ限ルモノトス)

事務要項	要項	期限	適用條文	樣式
工場法適用届	法一條令三條規則二十七條該當工場ナルトキ	十日以内	細	二例一
工場法適用届出事項變更届	適用届出事項ヲ變更シタルトキ	十日以内	細	二例二
工場法適用除外届	適用除外ノ事由生シタルトキ	十日以内	細	二例三
△少年少女ヲ午後十一時迄就業セシムルノ許可申請	十六歳未満ノ者及女子ヲ午後十一時迄就業セシムルトキ	其ノ都度	細法	三例四
△少年女子ニ休憩時間ヲ一齊ニ與ヘサルノ許可申請	十六歳未満ノ者及女子ニ休憩時間ヲ一齊ニ與フルコト能ハサル事由アルトキ	其ノ都度	細法	四例五
△夏季休憩時間増與ニ因ル就業時間延長許可申請	夏季休憩時間増與ニ伴ヒ就業時間ヲ延長セシムルトキ	其ノ都度	細法	五例六

△工場法第八條第二項ニ依ル就業時間延長(又ハ休日廢止)許可申請
 △工場法第八條第二項但書ニ依ル就業時間延長(又ハ休日廢止)届
 △工場法第八條第四項ニ依ル就業時間延長認可申請
 △工場法第八條第三項ニ依ル就業時間延長届
 △工場法施行令第七條ノ二ニ依ル認可申請
 職 工 扶 助 報 告
 障害扶助料(又ハ遺族扶助料)分割支給許可申請
 障害扶助料支給延期報告
 試ノ雇傭期間延長許可申請
 職工解雇(豫告又ハ解雇手當支給)届

不可避事由ニ因リ臨時必要アリ就業時間延長(又ハ休日廢止)セムトスルトキ
 急速ニ腐敗變質ノ虞アル原材料處理上繼續四日以内一ヶ月七日以内就業時間延長(又ハ休日廢止)シタルトキ
 季節的繁忙事業ニシテ一定期間就業時間ヲ延長セシムルトキ
 臨時必要アル場合就業時間ヲ延長セムトスルトキ但シ一ヶ月ニ付七日以内一日十三時間以内
 職工ノ重大過失ニ因ル負傷疾病ノ事實ニ付認定ヲ受ケムトスルトキ
 扶助ヲ爲シタルトキ(前月分取纏メルコト)
 障害扶助料(又ハ遺族ノ扶助料)ヲ分割シ支給セムトスルトキ
 職工ヲ引續キ雇傭シ本人ノ承認ヲ得テ雇傭期間中扶助料ノ支給ヲ延期シタルトキ
 職工ノ試ノ雇傭期間ヲ延長セムトスルトキ
 十四日前豫告ヲナシ或ハ十四日分以上ノ解雇手當ヲ支給シ解雇シタルトキ

其ノ都度	即 時	細法	七 八	例 七
其ノ都度	即 時	細規	八 四 八	例 八
其ノ都度	其ノ都度	細法	七 八	例 九
其ノ都度	其ノ都度	細法	七 八	例 十
其ノ都度	其ノ都度	細令	七ノ二	例 十
其ノ都度	二十日迄月	規法	二六ノ九	規所定 第六號 甲
其ノ都度	其ノ都度	細令	一一二	例 十二
其ノ都度	即 時	規令	二六ノ二	規定 第六號 乙
其ノ都度	其ノ都度	細令	二七ノ二	例 十三
其ノ都度	即 時	細令	二七ノ九	例 十四

職工解雇(懲戒解雇工)届
 歸郷旅費支給届
 代物給與許可申請
 代物給與者變更届
 代物給與者變更届
 代物給與者變更届
 貯蓄金許可申請
 工業主ノ給與ニ係ル貯蓄金不交付許可申請
 貯蓄金管理認可申請
 徒弟收容規定認可申請
 徒弟收容届

職工ノ責ニ歸スベキ事由ニ因リ解雇シタルトキ
 法定ノ歸郷旅費ヲ支給スヘキ場合其ノ支給ヲ完了シタルトキ
 職工ノ利益ノ爲メ金ノ一部ニ代ヘ他ノ給付ヲ爲サムトスルトキ
 代物給與者ノ變更アリタルトキ
 代物給與ヲ廢シタル者アリタルトキ
 職工ニ貯蓄金ヲ爲サシメムトスルトキ
 職工貯蓄金中工業主ノ給與ニ係ル部分ヲ交付セサルトキ
 職工ノ貯蓄金ヲ管理セムトスルトキ
 徒弟收容ニ關スル規定ヲ制定シタルトキ
 徒弟ヲ收容シタルトキ

即 時	即 時	即 時	其ノ都度	其ノ都度	其ノ都度	其ノ都度	其ノ都度	即 時	即 時	即 時
細令	細令	細令	細令	細令	細令	細令	細令	細令	細令	細令
二七ノ二	二七ノ九	二七ノ二	二七ノ二	二七ノ二	二七ノ二	二七ノ二	二七ノ二	二七ノ二	二七ノ二	二七ノ二
例 十五	例 十六	例 十七	例 十八	例 十八	例 十八	例 十八	例 十八	例 十八	例 十八	例 十八

徒弟收容届事項變更届	職 工 死 傷 報 告	工 場 災 害 事 故 報 告	○職 工 負 傷 疾 病 月 報	罹 病 者 發 見 届	工 場 狀 況 届	○職 工 現 在 及 異 動 届	○就 業 規 則 作 成 届	○就 業 規 則 變 更 届	扶 助 規 則 作 製 届	
徒弟收容届出事項ヲ變更シタルトキ 就業中又ハ工場或ハ附属建物内ニテ負 傷窒息急性中毒ニヨリ死亡又ハ三日以 上休業ヲ要スルモノ生シタルトキ 工場又ハ附属建物内ニ於テ火災爆發、 破裂、切斷、破損、倒壊等ノ災害發生 シタル事故アリタルトキ 職工ノ疾病、傷負、死亡ノトキ	規則第八條所定ノ罹病者アリタルトキ	毎年十月一日現在ノ狀況ニ關ス	就業規則ヲ作成シタルトキ	就業規則ノ一部又ハ全部ヲ變更シタル トキ	扶助ニ關シ必要ナル事項ヲ規定シタル トキ	扶助規則ヲ變更シタルトキ	工場管理人ヲ選任セムトスルトキ 法人理事、執行社員、代表社員、取締 役、業務擔當社員、支配人等ヲ管理人 トシタルトキ	工場管理人死亡シ又ハ之ヲ解任シタル トキ	職工名簿、雇入、解雇、扶助ニ關スル 保存書類ヲ滅失又ハ毀損シタルトキ	上掲ノ者ノ變更アリタル場合
即 時	即 時	即 時	即 時	即 時	即 時	即 時	即 時	即 時	即 時	即 時
細 二 一	規 二 五	規 二 六	細 二 二 四	細 二 二 六	細 二 二 八	細 二 二 九	令 二 七 〇 四	令 二 七 〇 四	令 一 九	令 一 九
例 二 二 二	第 規 四 所 號 定	第 規 五 所 號 定	第 規 三 所 號 定	第 細 五 所 號 定	第 細 六 所 號 定	第 細 七 所 號 定	例 二 十 三	例 二 十 四	例 二 十 五	例 二 十 五

扶助規則變更届	工場管理人選任認可申請	工場管理人選任届	工場管理人解任(又ハ死亡)届	保存書類滅失(毀損)届	(法定代理人、保佐人又ハ夫)變更届
扶助規則ヲ變更シタルトキ	工場管理人ヲ選任セムトスルトキ	法人理事、執行社員、代表社員、取締 役、業務擔當社員、支配人等ヲ管理人 トシタルトキ	工場管理人死亡シ又ハ之ヲ解任シタル トキ	職工名簿、雇入、解雇、扶助ニ關スル 保存書類ヲ滅失又ハ毀損シタルトキ	上掲ノ者ノ變更アリタル場合
即 時	其ノ都度	即 時	即 時	即 時	三日以内
令 一 九	細 二 一 八	規 二 一 二 八	規 二 二	規 二 二	細 三 一
例 二 十 六	例 二 十 九	例 三 十	例 三 十 一	例 二 十 八	例 三 十 二

簿 冊 書 類 名	記 載 及 作 成 要 領	期 保 存 間	適 條	様 式
職 工 名 簿	職工雇傭ノ都度遅滞ナク作成スルコト	職工死亡後	令 一 二 六	規 二 所 號 定
職 工 傷 病 者 名 簿 (一 部 適 用 工 場 除 外)	職工業務上ノ負傷疾病ノ爲休業(又ハ死亡シ)時ニカ、リタルトキ其ノ都度記載スルコト	使用終後	細 一 〇	第 二 所 號 定

職工出勤簿
賃金計算簿
徒弟名簿
職工、雇入解雇、扶助ニ關スル書類

定時始業終業時及職工毎ニ早出残業時
刻ヲ記載スルコト
支拂期ノ賃金總額其ノ他賃金算出ノ基
礎トナル事項ヲ記載スルコト
徒弟收容ノ都度遅滞ナク作成スルコト
職工雇入、解雇及扶助ニ關スル書類ヲ
保存スルコト

使用終リタ
三ノ年
使用終リタ
三ノ年
死後五年
間
職工解雇後
扶助終了後
三ノ年

細一三
細一四
細二二
規一九

例二十七ノ
同一二十七ノ
同一二十七ノ
第細四所
號定號

退職積立金及退職手當法願届一覽表

事務要項	適用條文	期限	記事	様式
退職積立金退職手當法適用届	法第一條、規第一條、細第三條	適用後十日以内		第一號
退職積立金退職手當積立金及支給規程作成届	法第十一條法第十六條法第十七條細第四條	適用届提出後三十日以内		

退職積立金ノ積立免除許可申請 賃金計算方法許可申請	法第十二條第二項 令第二條第二項	一括申請	第二號
退職積立金ノ取置積立許可申請	令第九條第一項 但書	一括届出	第三號
退職積立金ノ積立方法許可申請	令第十條第一項	一括届出	第三號
退職積立金ノ計算期間届	令第十三條第一項	一括届出	第三號
利子及餘剰金ノ労働者別計算期届	規第三十四條第一項	二月十五日(前年分)	一括届出	第三號
退職手當積立金ノ積立方法届	細第五條	一括届出	第三號
退職積立金及退職手當法施行狀況年報	規第八條細第九條	一括届出	第四號
退職積立金ノ支拂及退職手當支給完了届	規第九條細第十條	一括届出	第四號
法第十七條ニ依ル積立認可申請 (法人ノ場合)	法第十七條令第十七條規第十 九條第二十條細第十一條	當該事業年度終了後一月以内	定期退職手當積立金以外ノ積立(年一回以上)	第四號
同 (個人ノ場合)	同	當該曆年度終了後一月以内	同	第四號
法第十七條但書ニ依ル積立金免除許可申請	法第十七條但書、規第二十二條	右ノ積立免除	第四號

法第十八條但書ニ依ル許可申請	法第十八條但書、規第二十三條	退職手當積立金ノ率ノ計算、退職手當積立金、退職手當積立金及支給準備金規程	退職手當積立金
法第三條第一項ニ依ル許可申請	法第三條第一項規第四條第一項	右ノ廢止變更	退職手當積立金
法第三條第三項ニ依ル許可申請	同 第二項同 第二項		退職手當積立金
事業ノ一部承繼届	規第五條、第六條	承繼日ヨリ十日以内	退職手當積立金
事業ノ一部承繼届	同		退職手當積立金
事業ノ廢止届	規第二條	即時	退職手當積立金
事業ノ廢止届	規第二條規第三條		退職手當積立金
代理人選任届	規第四十三條細第十二條		退職手當積立金
法第三十條第一項ニ依ル許可申請	法第三十條第一項規第三十三條	退職手當積立金ノ積立免除ノ種類及所在ノ事業主ノ氏名住所ノ變更	退職手當積立金
適用届届出事項變更届	規第一條	退職手當積立金ノ積立免除ノ種類及所在ノ事業主ノ氏名住所ノ變更	退職手當積立金

健康保險及 労働者年金保險 届出一覽表 (京橋健康保險時報ニ據ル)

特別手當積立金ノ限度許可申請	令第二十七條第一項規第三十一條第一項	労働者數ニ著シキ増加アリタル	
月届出事變更更届	規第三十一條第二項		

被保險者種別	届出様式ノ種別	届出先	部數	期限
政府管掌健康保險被保險者	健康保險労働者年金保險被保險者資格取得届	地方廳へ	正副二通	五日以内
労働者年金保險被保險者	(改正健則第十條様式第四號ノ二)	地方廳へ	正副二通	五日以内
組合管掌健康保險被保險者	(1) 健康保險被保險者資格取得届 (改正健則第十條第一項様式第四號) (2) 労働者年金保險被保險者資格取得届 (勞則第三條様式第一號)	組合へ 地方廳へ	一通 正副二通	五日以内 十日以内

被保險者資格取得屆		被保險者資格喪失屆		被保險者資格變更屆	
政府又ハ組合管掌健康保險被保險者 (勞年被保險者タラザルモノ)	健康保險被保險者資格取得屆 (改正健則第十條第一項樣式第四號)	政府管掌健康保險被保險者 (既ニ政府管掌又ハ組合管掌被保險者タル者)	健康保險被保險者資格喪失屆 (改正健則第十條第二項但書樣式第五號ノ二)	政府管掌又ハ組合健康保險被保險者 (勞働者年金保險被保險者デナイモマ繼續シタル者)	健康保險被保險者喪失屆 (改正健則第十條第二項樣式第五號)
勞働者年金保險被保險者	勞働者年金保險被保險者資格取得屆 (勞則第三條樣式第一號)	勞働者年金保險被保險者	勞働者年金保險被保險者資格喪失屆 (改正健則第十條第二項樣式第五號)	勞働者年金保險被保險者	勞働者年金保險被保險者喪失屆 (改正健則第十條第二項樣式第五號)
組合管掌健康保險被保險者	組合管掌健康保險被保險者資格取得屆 (改正健則第十條第二項樣式第五號)	組合管掌健康保險被保險者	組合管掌健康保險被保險者資格喪失屆 (改正健則第十條第二項樣式第五號)	組合管掌健康保險被保險者	組合管掌健康保險被保險者喪失屆 (改正健則第十條第二項樣式第五號)
勞働者年金保險被保險者	勞働者年金保險被保險者資格取得屆 (勞則第十條樣式第三號)	勞働者年金保險被保險者	勞働者年金保險被保險者資格喪失屆 (改正健則第十條第二項樣式第五號)	勞働者年金保險被保險者	勞働者年金保險被保險者喪失屆 (改正健則第十條第二項樣式第五號)
地方廳ハ	地方廳ハ	地方廳ハ	地方廳ハ	地方廳ハ	地方廳ハ
正副二通	正副二通	正副二通	正副二通	正副二通	正副二通
五日以内	十日以内	五日以内	五日以内	五日以内	五日以内

勞働者年金保險標準報酬並保險料負擔表

被保險者	保險料月額	事業主負擔額	負擔額
政府管掌健康保險被保險者	健康保險被保險者喪失屆 (改正健則第十條第二項樣式第五號)	地方廳ハ	正副二通 其ノ都度
勞働者年金保險被保險者	健康保險被保險者報酬月額變更屆 (改正健則第三條樣式第一號)	組合ハ	正副二通 其ノ都度
組合管掌健康保險被保險者	勞働者年金保險被保險者報酬月額變更屆 (勞則第二十五條樣式第五號)	地方廳ハ	正副二通 其ノ都度
勞働者年金保險被保險者	健康保險被保險者報酬月額變更屆 (改正健則樣式第一號)	組合又ハ地方廳ハ	一通 其ノ都度

標準報酬月額	報酬月額	保險料月額	事業主負擔額	負擔額
一級 十圓	十五圓未滿	六十四錢	三十二錢	三十二錢
二級 二十圓	十五圓以上二十五圓未滿	一圓二十八錢	六十四錢	六十四錢

級	三級	四級	五級	六級	七級	八級	九級	十級	十一級	十二級	十三級	十四級	十五級
金額	三十圓	四十圓	五十圓	六十圓	七十圓	八十圓	九十圓	百圓	百十圓	百二十圓	百三十圓	百四十圓	百五十圓
未滿	二十五圓以上三十五圓未滿	三十五圓以上四十五圓未滿	四十五圓以上五十五圓未滿	五十五圓以上六十五圓未滿	六十五圓以上七十五圓未滿	七十五圓以上八十五圓未滿	八十五圓以上九十五圓未滿	九十五圓以上百圓未滿	百圓以上百十圓未滿	百十圓以上百二十圓未滿	百二十圓以上百三十圓未滿	百三十圓以上百四十圓未滿	百四十圓以上百五十圓未滿
金額	一圓九十二錢	二圓五十六錢	三圓二十錢	三圓八十四錢	四圓四十八錢	五圓十二錢	五圓七十六錢	六圓四十錢	七圓四錢	七圓六十八錢	八圓三十二錢	八圓九十六錢	九圓六十錢
金額	九十六錢	一圓二十八錢	一圓六十錢	一圓九十二錢	二圓二十四錢	二圓五十六錢	二圓八十八錢	三圓二十錢	三圓五十二錢	三圓八十四錢	四圓十六錢	四圓四十八錢	四圓八十錢
金額	九十六錢	一圓二十八錢	一圓六十錢	一圓九十二錢	二圓二十四錢	二圓五十六錢	二圓八十八錢	三圓二十錢	三圓五十二錢	三圓八十四錢	四圓十六錢	四圓四十八錢	四圓八十錢

勞務調整令關係事務一覽表

事務事項	要項	期分	期限	様式	適用條文
身體障害認定申請	身體障害アル技能者	第一期四月—九月 第二期十月—三月	ソノ都度 七月十日	第三號	則第五條
技能者雇入就職認可申請書	認可雇入		ソノ都度	第二號	則第三條
技能者求人申込書	紹介雇入		ソノ都度	指導所指定	程第七條
勞務供給ニ依ル技能者使用認可申請書	勞務供給業者ヨリ供給ニヨル使用		ソノ都度	第九號	則第十二條
日備技能者認定申請書	日備技能者認定書所持者ノ三ヶ月未滿ノ雇入		ソノ都度	第四號	則第五條
(水) 從業者雇入就職(所屬移動)認可申請	從業者ノ所屬ノ移動ヲ行フ場合		ソノ都度	第九號ノ二	則第十三條ノ二
(ハ) 命令配置申請	企業整備ニ依ル休廢止工場ノ勞務者ヲ必要トスル場合		ソノ都度	第九號ノ六	則第十三條ノ十一

壯	青	般	一
入認可申請書 入認關係成立屆	男子代替ノ一般青壯年女子雇入數屆	日傭勞務者(飭肉勞働者)雇入 勞務供給ニ依ル從業者使用認可申請書	特定ノ一般青壯年雇入就業認可申請書
身體障害認可申請	特別ノ事由ニ依リ禁止(制限)青種ニ雇入(使用、就職、從業)ヲ爲ス場合	勞務供給業者ヨリ供給ニヨル使用	特定者ノ雇入
命令配置申請	身體障害アル一般青壯年	日々ノ雇入、臨時ノ雇入	紹介雇入
從業者雇入、就職(所屬移動)認可申請	禁止(制限)職種ノ男子ト同數ノ女子ヲ雇レタル場合	第一期中四月一―六月 第二期七月一―九月 第三期十月一―十二月 第四期一月一―三月	緣故雇入レ員數認可
從業者ノ所屬ノ移動ヲ行フ場合	企業整備ニ依ル休廢止工場ノ勞務者ヲ必要トスル場合	同	第一期中四月一―九月 第二期十月一―三月
企業整備ニ依ル休廢止工場ノ勞務者ヲ必要トスル場合	其ノ都度	同	七月十日
修了ノ前年九月三十日迄ノ雇入紹介	禁止(制限)期間滿了各五日以内	前日正午	第六號
修了ノ前年九月三十日迄ノ雇入紹介	其ノ都度	九月一日 六月一日 三月一日	第七號
右同七月以後ノ紹介雇入	同	同	第八號
認可ニ依ル雇入	同	同	第九號
認可ニ依ル雇入	同	同	第十號
認可ニ依ル雇入	同	同	第十一號
認可ニ依ル雇入	同	同	第十二號

國民學校修了者求人申込書	國民學校修了者雇入認可申請書	國民學校修了者求人申込書	國民學校修了者雇入認可申請書
中等學校以下ノ學校等卒業者求人申込書	中等學校以下ノ學校等卒業者求人申込書	中等學校以下ノ學校等卒業者求人申込書	中等學校以下ノ學校等卒業者求人申込書
求 人 申 込 書	求 人 申 込 書	求 人 申 込 書	求 人 申 込 書
求 人 申 込 書	求 人 申 込 書	求 人 申 込 書	求 人 申 込 書
特定一般青壯年雇入就職認可申請書	特定一般青壯年雇入就職認可申請書	特定一般青壯年雇入就職認可申請書	特定一般青壯年雇入就職認可申請書
從業者ノ所屬ノ移動ヲ行フ場合	從業者ノ所屬ノ移動ヲ行フ場合	從業者ノ所屬ノ移動ヲ行フ場合	從業者ノ所屬ノ移動ヲ行フ場合
企業整備ニ依ル休廢止工場ノ勞務者ヲ必要トスル場合	企業整備ニ依ル休廢止工場ノ勞務者ヲ必要トスル場合	企業整備ニ依ル休廢止工場ノ勞務者ヲ必要トスル場合	企業整備ニ依ル休廢止工場ノ勞務者ヲ必要トスル場合
修了ノ前年九月三十日迄ノ雇入紹介	修了ノ前年九月三十日迄ノ雇入紹介	修了ノ前年九月三十日迄ノ雇入紹介	修了ノ前年九月三十日迄ノ雇入紹介
修了ノ前年九月三十日迄ノ雇入紹介	修了ノ前年九月三十日迄ノ雇入紹介	修了ノ前年九月三十日迄ノ雇入紹介	修了ノ前年九月三十日迄ノ雇入紹介
右同七月以後ノ紹介雇入	右同七月以後ノ紹介雇入	右同七月以後ノ紹介雇入	右同七月以後ノ紹介雇入
認可ニ依ル雇入	認可ニ依ル雇入	認可ニ依ル雇入	認可ニ依ル雇入
認可ニ依ル雇入	認可ニ依ル雇入	認可ニ依ル雇入	認可ニ依ル雇入
認可ニ依ル雇入	認可ニ依ル雇入	認可ニ依ル雇入	認可ニ依ル雇入
認可ニ依ル雇入	認可ニ依ル雇入	認可ニ依ル雇入	認可ニ依ル雇入

從業者所屬移動(轉勤)届	同種ノ工業、事業場其他ノ使用者ノ場所間ニ於ケル從業者ノ移動	五日以内	第十一號ノ則第十六條
從業者異動狀況報告(通報)	指定事業主毎月從業者ノ充足及異動狀況ヲ報告	翌月十日	第十一號ノ則第十五條

注意 本表中「規」ハ勞務調整令施行規則「程」ハ職業紹介規程ノ略

賃金統制令關係事務一覽 (田崎仁著「賃金統制令ノ實務」ニ據ル)

事務事項	要項	除外賃金	報告、承認、許可、別	期限	様式	添付書類
一、勞務者適用除外	本來勞務者デアル者ガ職員待遇ヲ受ケテキル場合ノ除外		承認	▲十人ニ達シタリヨリ三十日以内	第一號	
(1) 規則作成者ノ周知						

四、最高初給賃金		三、最低賃金除外		二、賃金規則		
(2)	(1)	(2)	(1)	(4)	(3)	(2)
▲日傭勞務者ノ最高賃金以上ノ賃金ヲ入レテハナシ	▲日傭勞務者ノ最高賃金以上ノ賃金ヲ入レテハナシ	公定最低賃金以下ノ支拂ヲナス場合	公定最低賃金以下ノ支拂ヲナス場合	報告	規則變更手續	記載省略申請
一、早出、殘業、休日就	一、早出、殘業、休日就	一、早出、殘業、休日就	一、早出、殘業、休日就			
二、就勤手當	二、就勤手當	二、就勤手當	二、就勤手當			
三、夜間、深夜、早業、休日就	三、夜間、深夜、早業、休日就	三、夜間、深夜、早業、休日就	三、夜間、深夜、早業、休日就			
四、賞與	四、賞與	四、賞與	四、賞與			
許可	報告	許可	報告			許可
	雇入レノ日ヨリ十四日以内		雇入レノ日迄			
第五號		第四號	第三號			第二號
賃金規則ノ寫		賃金規則記載事項ノ第三、四號ノ寫				

五、賃金總額制限及除外		賃金(最高)除外	
(1) 賃金總額制限	(2) 單位生産對賃金額	(3) 技能、秀特優者	(4) 其他
公定賃金總額以上ノ支拂ヲナス場	合拂ヲナス場	▲勞務者ノ最高賃金ノ初給以上ノ入場合	
一、賞與 二、臨時給與 三、臨時手当 四、臨時手当 五、臨時手当 六、臨時手当 七、臨時手当 八、臨時手当 九、臨時手当 十、臨時手当 十一、臨時手当 十二、臨時手当 十三、臨時手当 十四、臨時手当 十五、臨時手当 十六、臨時手当 十七、臨時手当 十八、臨時手当 十九、臨時手当 二十、臨時手当 二十一、臨時手当 二十二、臨時手当 二十三、臨時手当 二十四、臨時手当 二十五、臨時手当 二十六、臨時手当 二十七、臨時手当 二十八、臨時手当 二十九、臨時手当 三十、臨時手当 三十一、臨時手当 三十二、臨時手当 三十三、臨時手当 三十四、臨時手当 三十五、臨時手当 三十六、臨時手当 三十七、臨時手当 三十八、臨時手当 三十九、臨時手当 四十、臨時手当 四十一、臨時手当 四十二、臨時手当 四十三、臨時手当 四十四、臨時手当 四十五、臨時手当 四十六、臨時手当 四十七、臨時手当 四十八、臨時手当 四十九、臨時手当 五十、臨時手当	五、臨時給與 六、臨時給與 七、臨時給與 八、臨時給與 九、臨時給與 十、臨時給與 十一、臨時給與 十二、臨時給與 十三、臨時給與 十四、臨時給與 十五、臨時給與 十六、臨時給與 十七、臨時給與 十八、臨時給與 十九、臨時給與 二十、臨時給與 二十一、臨時給與 二十二、臨時給與 二十三、臨時給與 二十四、臨時給與 二十五、臨時給與 二十六、臨時給與 二十七、臨時給與 二十八、臨時給與 二十九、臨時給與 三十、臨時給與 三十一、臨時給與 三十二、臨時給與 三十三、臨時給與 三十四、臨時給與 三十五、臨時給與 三十六、臨時給與 三十七、臨時給與 三十八、臨時給與 三十九、臨時給與 四十、臨時給與 四十一、臨時給與 四十二、臨時給與 四十三、臨時給與 四十四、臨時給與 四十五、臨時給與 四十六、臨時給與 四十七、臨時給與 四十八、臨時給與 四十九、臨時給與 五十、臨時給與		
認可	認可	認可	許可
	第八號	第七號	第六號
最近ノ賃金總額計 算期間ノ總括票ノ 寫	(一)賃金規則ノ寫 (二)最近ノ賃金總額 計算期間ノ並ニ最 近三ヶ月ノ每月ノ 總括票ノ寫	(一)厚生省指定様式 第一號ヨリ第十七 號 (二)賃金規則ノ寫 (三)最近ノ賃金總額 計算期間ノ總括票 ノ寫	賃金規則ノ寫

六、賃物給與		七、賞與(制限外)支給		八、臨時給與(制限外)支給		九、白米、精麥、食事ノ販賣		一〇、協定賃金	
(1) 賃金ノ協定	(2) 賃金除外	一、均賞一人ノ平均賞額ハ六個月ノ標準額又ハ日額平均額以上ノ時ニ達ス		一、均賞一人ノ平均賞額ハ六個月ノ標準額又ハ日額平均額以上ノ時ニ達ス		一、均賞一人ノ平均賞額ハ六個月ノ標準額又ハ日額平均額以上ノ時ニ達ス		(1) 賃金ノ協定	(2) 賃金除外
白米、精麥、食事ノ賃物ノ給與	均賞一人ノ平均賞額ハ六個月ノ標準額又ハ日額平均額以上ノ時ニ達ス	均賞一人ノ平均賞額ハ六個月ノ標準額又ハ日額平均額以上ノ時ニ達ス		均賞一人ノ平均賞額ハ六個月ノ標準額又ハ日額平均額以上ノ時ニ達ス		均賞一人ノ平均賞額ハ六個月ノ標準額又ハ日額平均額以上ノ時ニ達ス		均賞一人ノ平均賞額ハ六個月ノ標準額又ハ日額平均額以上ノ時ニ達ス	均賞一人ノ平均賞額ハ六個月ノ標準額又ハ日額平均額以上ノ時ニ達ス
許可	許可	許可		許可		許可		認可	報告
								履入レノ日 ヨリ十四日 以内	
		第十三號		第十四號		第十五號			
賃金規則記載ノ寫	最近ノ賃金總額計 算期間又ハ最近三 ヶ月ノ每月ノ總括 票ノ寫	最近ノ賃金總額計 算期間又ハ最近三 ヶ月ノ每月ノ總括 票ノ寫		最近ノ賃金總額計 算期間又ハ最近三 ヶ月ノ每月ノ總括 票ノ寫		最近ノ賃金總額計 算期間又ハ最近三 ヶ月ノ每月ノ總括 票ノ寫		(一)様式第十三號ト 同ジ (二)賃金規則ノ記載 ノ寫	

二、貸金臺帳					
(2) 記入 個人票 總括票 特別手當臺帳 昇給臺帳		(1) 成帳 個人票 總括票 特別手當臺帳 昇給臺帳		(3) 協定ノ 變更又ハ 廢止	
特別手當臺帳ニ記 載スル手當 貸金總額制限除外				ス場合 協定内容ノ 變更及ビ廢 止	
				認可	
○毎月ノ 貸金總額 ノ計算 ノ期間 ノ日 ノ末 ノ迄		○毎月ノ 貸金總額 ノ計算 ノ期間 ノ日 ノ末 ノ迄		事由ヲ生ジ タル日ヨリ 三十日以内	
第七號		第七號		第六號	
第六號		第六號		第五號	
第三號		第三號		第三號	

(5) 個人票 様式外 使用		(4) 保存		(3) 報告	
指定様式外 ノ個人票ヲ 使用セント スル時				貸金(一、二、三 ヲ除ク)	
許可					
三ヶ年		○毎月ノ 貸金總額 ノ計算 ノ期間 ノ日 ノ末 ノ迄		○毎月ノ 貸金總額 ノ計算 ノ期間 ノ日 ノ末 ノ迄	
		第七號		第七號	
		第六號		第六號	
		第三號		第三號	

備考 ○印ハ三十人以上ノミ
ハ軍需會社ニハ適用セズ
賃金統制令ト軍需會社法トノ關係
實物給與、賞與、臨時ノ給與、物品廉賣ノ許可

第二表 (每年度適用)

附 録 生 年 又 入 社 月	月											
	一 月	二 月	三 月	四 月	五 月	六 月	七 月	八 月	九 月	十 月	十 一 月	十 二 月
一 月	1, 11, 21, 31, 41, 51, 61, 71, 81, 91, 101, 112, 0											
二 月	1, 01, 11, 21, 31, 41, 51, 61, 71, 81, 91, 101, 11											
三 月	, 11, 01, 11, 21, 31, 41, 51, 61, 71, 81, 91, 10											
四 月	, 10, 11, 01, 11, 21, 31, 41, 51, 61, 71, 81, 9											
五 月	, 9, 10, 11, 01, 11, 21, 31, 41, 51, 61, 71, 8											
六 月	, 8, 9, 10, 11, 01, 11, 21, 31, 41, 51, 61, 7											
七 月	, 7, 8, 9, 10, 11, 01, 11, 21, 31, 41, 51, 6											
八 月	, 6, 7, 8, 9, 10, 11, 01, 11, 21, 31, 41, 5											
九 月	, 5, 6, 7, 8, 9, 10, 11, 01, 11, 21, 31, 4											
十 月	, 4, 5, 6, 7, 8, 9, 10, 11, 01, 11, 21, 3											
十 一 月	, 3, 4, 5, 6, 7, 8, 9, 10, 11, 01, 11, 2											
十 二 月	, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 8, 9, 10, 11, 01, 1											

第一表 (昭和十八年度適用)

生年又ハ 入 社 年	年 齡 又 ハ 經 驗 年 數	生年又ハ 入 社 年	年 齡 又 ハ 經 驗 年 數
明治 25	52	大正 7	26
26	51	8	25
27	50	9	24
28	49	10	23
29	48	11	22
30	47	12	21
31	46	13	20
32	45	14	19
33	44	15	18
34	43	昭和 1	
35	42	2	17
36	41	3	16
37	40	4	15
38	39	5	14
39	38	6	13
40	37	7	12
41	36	8	11
42	35	9	10
43	34	10	9
44	33	11	8
45	32	12	7
大正 1		13	6
2	31	14	5
3	30	15	4
4	29	16	3
5	28	17	2
6	27		

年令及經驗年數早見表

滿年令又は經驗年數算出法

(一) 先づ第一表により算へ年を求め、それに第二表による年月を加へたものから、二ヶ年を減じたものが滿年齢である。

(二) 經驗年數は、人社年月から引續いて現に従業せる者の昭和十六年度中に於ける年數を求むる場合に利用するもので計算方法は(一)と同様である。

(例)

例へば、大正八年三月生れの人は、昭和十六年十月に滿何歳何ヶ月かを見る場合、先づ第一表で、算へ年二十三歳である事を知り、それに第二表で、生れ月三月と調べ月十日とが交又する欄、一年八ヶ月を加へると、二十四年八ヶ月となる。それから二ヶ年を減じたもの、二十二年八ヶ月が、滿年令である。

經驗年數を求むる場合は、生年月の代りに入社年月を用ふればよい。

會社經理統制令中學校卒業生基本給料月額一覽表

區分	標準	基本	給料	月額	額
大學令ニ依ル大學卒業又ハ之ニ準ズル學歷ヲ有スル技術者	大學令ニ依ル大學卒業又ハ之ニ準ズル學歷ヲ有スル事務者	八十五圓	但シ卒業後一年以上ヲ經過セルモノニ在リテハ		八十五圓
專門學校令若ハ實業學校令ニ依ル專門學校卒業又ハ之ニ準ズル學歷ヲ有スル技術者	專門學校令若ハ實業學校令ニ依ル專門學校卒業又ハ之ニ準ズル學歷ヲ有スル事務者	七十圓	但シ卒業後一年以上ヲ經過セルモノニ在リテハ		七十圓
實業學校令ニ依ル實業學校卒業又ハ之ニ準ズル學歷ヲ有スル技術者	實業學校令ニ依ル實業學校卒業又ハ之ニ準ズル學歷ヲ有スル事務者	六十圓	但シ卒業後一年以上ヲ經過セルモノニ在リテハ		六十圓
中學校令ニ依ル中學校卒業生又ハ之ニ準ベル學歷ヲ有スル者	中學校令ニ依ル中學校卒業生又ハ之ニ準ベル學歷ヲ有スル者	四十五圓	但シ卒業後一年以上ヲ經過セルモノニ在リテハ		四十五圓
高等女學校令ニ依ル高等女學校卒業生又ハ之ニ準ズル學歷ヲ有スル者	高等女學校令ニ依ル高等女學校卒業生又ハ之ニ準ズル學歷ヲ有スル者	四十二圓	但シ卒業後一年以上ヲ經過セルモノニ在リテハ		四十二圓
國民學校令ニ依ル國民學校高等科修了者又ハ之ニ準ズル學歷ヲ有スル者	國民學校令ニ依ル國民學校高等科修了者又ハ之ニ準ズル學歷ヲ有スル者	三十三圓	但シ卒業後一年以上ヲ經過セルモノニ在リテハ		三十三圓
國民學校令ニ依ル國民學校初等科修了者又ハ之ニ準ズル學歷ヲ有スル者	國民學校令ニ依ル國民學校初等科修了者又ハ之ニ準ズル學歷ヲ有スル者	二十一圓	但シ卒業後一年以上ヲ經過セルモノニ在リテハ		二十一圓

土木建築業勞務者最低賃金及最高賃金一覽表

最低賃金額

1 男子勞務者
二十歳未満 六十錢
二十歳以上 一圓三十五錢

2 女子勞務者
二十歳未満 四十五錢
二十歳以上 七十五錢

最高及標準賃金額

1 男子勞務者

職種別	賃金別		摘 要
	最高賃金額	標準賃金額	
大工	三・九〇	三・五〇	船大工ヲ除ク
假杵大工	三・五〇	三・二〇	主トシテコンクリート工事ノ假杵等ノ製作業ヲ爲ス大工
左官	四・〇〇	三・五〇	
左官材料工	三・七〇	三・〇〇	煉瓦、タイル材料整備工ヲ含ム

石工	四・三〇	三・八〇	石積工ヲ含ム
石磨工	四・〇〇	三・五〇	
石仲仕	三・七〇	三・一〇	石材ノ運搬取扱勞務者
鳶職	三・五〇	三・〇〇	コンクリート塀組立工ヲ含ム
植木工	三・三〇	二・七〇	
鍛冶工	四・五〇	三・八〇	
鐵筋工	三・八〇	三・二〇	鐵網工ヲ含ム
運轉工	三・六〇	三・〇〇	機械器具ノ操作、檢査、修繕、据付、取除等ノ作業ニ従事スル勞務者
研工	三・七〇	三・二〇	コンクリート等ノ毀工ヲ含ム
防水工	四・二〇	三・六〇	アスファルト工ヲ含ム
隧道抗夫	三・七〇	三・〇〇	
斧夫	三・八〇	三・二〇	

木舞工	三・七〇	三・〇〇	
板家根工	四・二〇	三・六〇	木羽葺、土居葺工ヲ含ム
瓦葺工	四・二〇	三・六〇	
スレート工	四・二〇	三・六〇	
草家根工	四・〇〇	三・五〇	
試力工	三・九〇	三・二〇	銅工、建築板金工ヲ含ム
塗裝工	四・〇〇	三・五〇	
疊工	三・五〇	三・三〇	
建具工	三・八〇	三・二〇	現場作業ノ勞務者ニ限ル
表具師	三・八〇	三・二〇	
硝子工	三・六〇	三・〇〇	
煉瓦工及 タイル工	四・二〇	三・六〇	日次工ヲ含ミ現場作業ノ勞務者ニ限ル

進 撃 夫	井戸職		看 板 工	手 元 工	土 工	人 夫	土木建築者
	掘方	綱元					
三・八〇	五・〇〇	三・五〇	三・七〇	三・二〇	三・五〇	三・〇〇	三・〇〇
三・二〇	四・五〇	三・〇〇	三・二〇	二・七〇	二・八〇	二・五〇	二・五〇

甲種電氣工事人又ハ外線工ニシテ之ニ相當スル技能ヲ有スル勞務者

乙種電氣工事人又ハ外線工ニシテ之ニ相當スル技能ヲ有スル勞務者

木地専門工ヲ含ム

各職ノ手元タル勞務者

コンクリート工、鐵道軌道工夫其ノ他之ニ類スル勞務者ヲ含ム

場屋又ハ物品ノ看守、清掃、整備其ノ他之ニ準ズル作業ニ従事スル勞務者ヲ含ム

前記各職ニ該當セザル土木建築作業ニ従事スル勞務者

年少者(十八歳未満ノ者)及人夫以外ノ職種ニシテ
經驗三年未満ノ者ニ對シテハ右表ノ八割ニ相當スル額

2 女子勞務者

男子勞務者賃金額ノ七割ニ相當スル額

官報添附欄

法律

朕帝國議會ノ協賛ヲ經タル勞働者年金保險法中改正法律ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

昭和十九年二月十五日

内閣總理大臣	東條英機
厚生大臣	小泉親彦
大藏大臣	賀屋興宜
運輸通信大臣	八田嘉明

法律第二十一號

勞働者年金保險法中左ノ通改正ス

「勞働者年金保險法」ヲ「厚生年金保險法」ニ改ム

第一條中「勞働者年金保險」ヲ「厚生年金保險」ニ、「死亡又ハ脱退」ヲ「死亡、脱退又ハ婚姻」ニ改ム

第二條、第七條及第九條中「勞働者年金保險」ヲ「厚生年金保險」ニ改ム

第三條第一項中「事業主ヨリ」ヲ削リ同條中「賃金又ハ給料」ヲ「賃金、給料又ハ俸給」ニ改ム

附 錄

第五條 保險料其ノ他本法ニ依ル徵收金ヲ徵收シ又ハ其ノ

還付ヲ受クル權務及障害手當金、結婚手當金又ハ第四十

二條ノ二ノ規定ニ依ル一時金ヲ受クル權利ハ一年ヲ經過

シタルトキ、養老年金、障害年金、遺族年金、脱退手當

金又ハ第四十三條、第三十四條、第三十八條乃至第三十

九條ノ二、第四十七條若ハ第五十一條ノ規定ニ依ル一時

金ヲ受クル權利ハ五年ヲ經過シタルトキハ時効ニ因リテ

消滅ス

第十一條第三項中「市町村」ヲ「市町村(東京都ノ區ノ存スル

區域ニ於テハ東京都)」ニ、同條第四項中「市町村」ヲ「市

町村(東京都ノ區ノ存スル區域ニ於テハ東京都)」ニ、「市

町村ハ」ヲ「市町村(東京都ノ區ノ存スル區域ニ於テハ東京

都)ハ」ニ改ム

第十四條中「政府ノ事業ニ使用セララルル者及使用セラレタ

ル者」ヲ「國ノ事業ニ使用セララルル者及使用セラレタル者並

ニ東京都、北海道、府縣、市町村其ノ他之ニ準ズベキモノ

ニ使用セララルル者」ニ改ム

第十六條 健康保險法第十三條ニ規定スル事業所ニ使用セ

ラルル者ハ厚生年金保險ノ被保險者トス但シ左ノ各號ノ

一ニ該當スル者ハ此ノ限ニ在ラズ

一 船員保險ノ被保險者
 二 帝國臣民ニ非ザル者
 三 前各號ニ掲グル者ノ外勅令ヲ以テ指定スル者
 第十六條ノ二 前條ニ規定スル事業所以外ノ事業所ノ事業主ハ地方長官(東京都ニ在リテハ警視總監以下同ジ)ノ認可ヲ受ケ其ノ事業所ニ使用セラルル者ヲ包括シテ厚生年金保險ノ被保險者ト爲スコトヲ得
 前項ノ認可ヲ申請スルニハ被保險者ト爲ルベキ者ノ二分ノ一以上ノ同意ヲ得ルコトヲ要ス
 第十六條ノ三 前條ノ認可アリタルトキハ其ノ事業所ニ使用セラルル者ハ厚生年金保險ノ被保險者トス
 第十六條但書ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス
 第十七條第一項及第二項ヲ左ノ如ク改ム
 第十六條ニ規定スル事業所又ハ第十六條ノ二ノ認可アリタル事業所以外ノ事業所ニ使用セラルル者ハ地方長官ノ認可ヲ受ケ厚生年金保險ノ被保險者ト爲ルコトヲ得
 第十六條但書ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス
 第十八條 第十六條ノ事業所ガ同條ノ規定ニ該當セザルニ至リタルトキハ其ノ事業所ニ付第十六條ノ二ノ認可アリタルモノト看做ス

第十九條中「第十六條ノ規定ニ依ル被保險者ハ其ノ業務ニ使用セラルルニ至リタル日又ハ同條但書」ヲ「第十六條及第十六條ノ三ノ規定ニ依ル被保險者ハ其ノ事業所ニ使用セラルルニ至リタル日又ハ第十六條但書若ハ第十六條ノ三第二項」ニ改ム
 第二十條中「第十六條及第十七條ノ規定ニ依ル被保險者ハ死亡シタル日、其ノ業務ニ使用セラレザルニ至リタル日又ハ第十六條第四號乃至第六號」ヲ「第十六條、第十六條ノ三及第十七條ノ規定ニ依ル被保險者ハ死亡シタル日、其ノ事業所ニ使用セラレザルニ至リタル日又ハ第十六條但書、第十六條ノ三第二項」ニ改ム
 第二十條ノ二 第十六條ノ三ノ規定ニ依ル被保險者ヲ使用スル事業主ハ地方長官ノ認可ヲ受ケ其ノ被保險者ノ全部ヲシテ其ノ資格ヲ喪失セシムルコトヲ得
 前項ノ認可ヲ申請スルニハ被保險者ノ四分ノ三以上ノ同意ヲ得ルコトヲ要ス
 第二十二條第一項中「十四年」ヲ「十年」ニ改ム
 第二十三條第一項中「第十六條及第十七條」ヲ「第十六條、第

十六條ノ三及第十七條」ニ改ム
 第二十四條第一項但書ヲ削リ同條第二項中「半月」ヲ「一月」ニ改ム
 第二十六條中「遺族年金又ハ第三十三條、第三十四條、第三十八條、第三十九條若ハ第四十七條ノ規定ニ依ル一時金」ヲ「遺族年金、第三十三條、第三十四條、第三十八條乃至第三十九條ノ二若ハ第四十七條ノ規定ニ依ル一時金又ハ第三十條ノ五ノ規定ニ依ル支給金」ニ改ム
 第二十七條、第四十一條、第五十條、第五十一條、第五十四條 第五十五條中「療疾年金」ヲ「障害年金」ニ改ム
 第三十條ノ次ニ左ノ一條ヲ加フ
 第三十條ノ二 保險給付ヲ受クル權利ヲ有スル者ガ死亡シタル場合ニ於テ其ノ者ガ支給ヲ受クベキ保險給付ニシテ未ダ其ノ支給ヲ受ケザリシモノ又ハ被保險者若ハ被保險者タリシ者ガ死亡シタルニ因リ支給スベキ脱退手當金ハ之ヲ被保險者タリシ者ノ遺族ニ支給ス
 第三十一條第二項ヲ左ノ如ク改ム
 坑内夫タル被保險者トシテノ被保險者タリシ期間ガ二十年以上ナル者ニ付テハ前項ノ規定ニ拘ラズ其ノ者ガ被保險者ノ資格ヲ喪失シタル後五十歳ヲ超エタルトキ又ハ五

十歳ヲ超エ其ノ資格ヲ喪失シタルトキヨリ其ノ者ノ死亡ニ至ル迄養老年金ヲ支給ス繼續シタル十五年間ニ於テ坑内夫タル被保險者トシテノ被保險者タリシ期間ガ十六年以上ナル者ニ付亦同ジ
 第三十二條 養老年金ノ額ハ被保險者タリシ全期間ノ平均報酬月額(以下平均報酬月額ト稱ス)ノ四月分ニ相當スル金額トシ被保險者タリシ期間二十年以上一年ヲ増ス毎ニ其ノ一年ニ對シ平均報酬月額(平均報酬月額ノ三十分ノ一ノ額トス以下同ジ)ノ四分分ニ相當スル金額ヲ加ヘタル金額トス
 同一ノ事業主ノ事業所又ハ同一ノ事業所ニ於テ引續キ被保險者タリシ期間十年以上ナル者ニ關シテハ其ノ者ニ支給セラルル養老年金ノ額ハ前項ノ金額ニ其ノ期間ノ初ノ十年ニ對シ平均報酬月額ノ四分分ニ相當スル金額ヲ、十年以上五年ヲ増ス毎ニ其ノ五年ニ對シ平均報酬月額ノ四分分ニ相當スル金額ヲ加ヘタル金額トス
 第三十三條中「養老年金ノ支給ヲ受クル者ガ死亡シタル際」ヲ「養老年金ノ支給ヲ受クル者ガ業務上ノ事由以外ノ事由(以下業務外ノ事由ト稱ス)ニ因リ死亡シタル際」ニ、「五年分」ヲ「六年分」ニ改ム

第三十四條第一項中「養老年金ノ支給ヲ受クルコトナクシテ死亡シタル際」ヲ「養老年金ノ支給ヲ受クルコトナクシテ業務外ノ事由ニ因リ死亡シタル際」ニ、「五分分」ヲ「六分分」ニ、「同條第二項中」第三十九條」ヲ「第三十八條」ニ改ム

「第三節 癱疾年金及癱疾手當金」ヲ「第三節 障害年金及障害手當金」ニ改ム

第三十六條第一項中「癱疾年金」ヲ「障害年金」ニ、「癱疾手當金」ヲ「障害手當金」ニ、「同條第二項中」癱疾年金又ハ癱疾手當金」ヲ「業務外ノ事由ニ因リ癱疾ト爲リタル者ガ障害年金又ハ障害手當金」ニ改メ同條第一項ノ次ニ左ノ一項ヲ加フ

被保險者又ハ被保險者タリシ者ノ前項ノ規定ニ依ル癱疾ノ程度ハ主務大臣ノ認定スル所ニ依ル

第三十七條 障害年金ノ額ハ左ノ區別ニ依ル金額トス

- 一 被保險者又ハ被保險者タリシ者ガ業務上ノ事由ニ因リ癱疾ト爲リタル場合ニ於テハ平均報酬月額ニ癱疾ノ程度ニ應ジ別表第一ニ定ムル月數ヲ乘ジテ得タル金額
 - 二 被保險者又ハ被保險者タリシ者ガ業務外ノ事由ニ因リ癱疾ト爲リタル場合ニ於テハ平均報酬月額ノ四月分ニ相當スル金額
- 被保險者タリシ期間二十年以上ナル者ニ關シテハ其ノ

者ニ支給セラルル障害年金ノ額ハ前項ノ金額ニ二十年以上一年ヲ増ス毎ニ其ノ一年ニ對シ平均報酬日額ノ四日分ニ相當スル金額ヲ加ヘタル金額トス

同一ノ事業主ノ事業所又ハ同一ノ事業所ニ於テ引續キ被保險者タリシ期間十年以上ナル者ニ關シテハ其ノ者ニ支給セラルル障害年金ノ額ハ第一項又ハ前項ノ金額ニ其ノ期間ノ初ノ十年ニ對シ平均報酬日額ノ四日分ニ相當スル金額ヲ、十年以上五年ヲ増ス毎ニ其ノ五年ニ對シ平均報酬日額ノ四日分ニ相當スル金額ヲ加ヘタル金額トス

前三項ノ規定ニ拘ラズ障害年金ノ額ハ平均報酬月額ノ十二月分ニ相當スル金額ヲ超ユルコトヲ得ズ

第三十七條ノ二 障害手當金ノ額ハ左ノ區別ニ依ル金額トス

- 一 被保險者又ハ被保險者タリシ者ガ業務上ノ事由ニ因リ癱疾ト爲リタル場合ニ於テハ平均報酬月額ニ癱疾ノ程度ニ應ジ別表第二ニ定ムル月數ヲ乘ジテ得タル金額
 - 二 被保險者又ハ被保險者タリシ者ガ業務外ノ事由ニ因リ癱疾ト爲リタル場合ニ於テハ平均報酬月額ノ十月分ニ相當スル金額
- 第三十八條 業務上ノ事由ニ因ル癱疾ト爲リタルニ因リ障

害年金ノ支給ヲ受クル者又ハ被保險者タリシ期間二十年以上ナル者ニシテ業務外ノ事由ニ因ル癱疾ト爲リタルニ因リ障害年金ノ支給ヲ受クルモノガ業務外ノ事由ニ因リ死亡シタル際其ノ者ノ死亡ニ關シ遺族年金ノ支給ヲ受クベキ者ナキ場合ニ於テ既ニ支給ヲ受ケタル障害年金ノ總額ガ障害年金ノ六年分ニ相當スル金額ニ滿タザルトキハ其ノ差額ヲ一時金トシテ其ノ遺族ニ支給ス

第三十九條 被保險者タリシ期間二十年未滿ナル者ニシテ業務外ノ事由ニ因ル癱疾ト爲リタルニ因リ障害年金ノ支給ヲ受ケタルモノガ業務外ノ事由ニ因リ死亡シタル場合ニ於テ既ニ支給ヲ受ケタル障害年金ノ總額ガ被保險者ノ資格喪失ノ際支給ヲ受ケタルコトヲ得ベカリシ脱退手當金及平均報酬月額ノ十月分ノ合算額（平均報酬月額ノ二十二月分ヲ超ユルトキハ二十二月分ニ止ム）ニ相當スル金額ニ滿タザルトキハ其ノ差額ヲ一時金トシテ其ノ遺族ニ支給ス

前項ノ規定ハ第三十一條第二項後段ノ規定ニ該當スル者ガ死亡シタル場合ニ於テハ之ヲ適用セズ

第三十九條ノ二 被保險者又ハ被保險者タリシ者ガ業務上ノ事由ニ因リ勅令ノ定ムル期間内ニ死亡シタル際其ノ者

ノ死亡ニ關シ遺族年金ノ支給ヲ受クベキ者ナキ場合ニ於テハ平均報酬月額ノ三十六月分ニ相當スル金額ヲ一時金トシテ其ノ遺族ニ支給ス

被保險者タリシ期間二十年以上ナル者ニ關シテハ其ノ遺族ニ支給セラルル一時金ノ額ハ前項ノ金額ニ二十年以上一年ヲ増ス毎ニ其ノ一年ニ對シ平均報酬日額ノ二十四日分ニ相當スル金額ヲ加ヘタル金額トス

同一ノ事業主ノ事業所又ハ同一ノ事業主ノ事業所又ハ同一ノ事業所ニ於テ引續キ被保險者タリシ期間十年以上ナル者ニ關シテハ其ノ遺族ニ支給セラルル一時金ノ額ハ第一項又ハ前項ノ金額ニ其ノ期間ノ初ノ十年ニ對シ平均報酬日額ノ二十四日分ニ相當スル金額ヲ、十年以上五年ヲ増ス毎ニ其ノ五年ニ對シ平均報酬日額ノ二十四日分ニ相當スル金額ヲ加ヘタル金額トス

第一項ノ場合ニ於テ業務上ノ事由ニ因ル癱疾ト爲リタルニ因リ障害年金ノ支給ヲ受ケタル者ニ關シテハ其ノ者ガ既ニ支給ヲ受ケタル障害年金ノ總額ガ障害年金ノ六年分ニ相當スル金額ニ滿タザル場合ニ於テ其ノ差額ガ第一項、第二項又ハ前項ノ金額ヲ超ユルトキハ其ノ超ユル部分ノ金額ニ相當スル金額ヲ第一項、第二項又ハ前項ノ金額ニ

加ヘテ其ノ遺族ニ支給ス

第四十條中「養老年金及廢疾年金」ヲ「養老年金及障害年金又ハ以上ノ障害年金」ニ改ム

第四十二條 養老年金又ハ障害年金ヲ受クル權利ヲ有スル者ニハ障害手當金ヲ支給セズ

第四十二條ノ二 養老年金又ハ障害年金ヲ受クル權利ヲ有スル者ガ業務上ノ事由ニ因ル障害手當金ヲ受クベキ程度ノ廢疾ト爲リタル場合ニ於テハ勅令ノ定ムル所ニ依リ一時金ヲ支給ス

第四十三條 障害年金ノ支給ヲ受クル被保險者ガ其ノ資格ヲ喪失シタルトキハ前後ノ被保險者タリシ期間ヲ合算シテ障害年金ノ額ヲ改定ス

前項ノ規定ニ依リ障害年金ノ額ヲ改定スル場合ニ於テ其ノ額ガ従前ノ障害年金ノ額ヨリ少キトキハ従前ノ障害年金ノ額ヲ以テ改定障害年金ノ額トス

第四十四條 左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ被保險者タリシ者ノ遺族ニ對シ遺族年金ヲ支給ス

一 被保險者タリシ期間二十年以上ナル者ガ業務外ノ事由ニ因リ死亡シタルトキ

二 業務上ノ事由ニ因ル廢疾ト爲リタルニ因リ障害年金

ノ支給ヲ受クル者ガ業務外ノ事由ニ因リ死亡シタルトキ

三 被保險者又ハ被保險者タリシ者ガ業務上ノ事由ニ因リ第三十九條ノ二第一項ノ規定ニ依ル勅令ノ定ムル期間内ニ死亡シタルトキ

第四十五條 遺族年金ノ額ハ左ノ區別ニ依ル金額トス

一 養老年金ノ支給ヲ受クル者又ハ業務外ノ事由ニ因ル廢疾ト爲リタルニ因リ障害年金ノ支給ヲ受クル者ガ業務外ノ事由ニ因リ死亡シタル場合ニ於テハ其ノ者ニ支給セラルル養老年金又ハ障害年金ノ額ノ二分ノ一ニ相當スル金額

二 被保險者タリシ期間二十年以上ナル者ガ養老年金ノ支給ヲ受クルコトナクシテ業務外ノ事由ニ因リ死亡シタル場合ニ於テハ其ノ者ガ支給ヲ受クルコトヲ得ベカリシ養老年金ノ額ノ二分ノ一ニ相當スル金額

三 業務上ノ事由ニ因ル廢疾ト爲リタルニ因リ障害年金ノ支給ヲ受クル者ガ業務外ノ事由ニ因リ死亡シタル場合ニ於テハ平均報酬月額ノ二月半分ニ相當スル金額

四 被保險者又ハ被保險者タリシ者ガ業務上ノ事由ニ因リ第三十九條ノ二第一項ノ規定ニ依ル勅令ノ定ムル期

間内ニ死亡シタル場合ニ於テハ平均報酬月額ノ五月分ニ相當スル金額

前項第三號又ハ第四號ノ場合ニ於テ被保險者タリシ期間二十年以上ナル者ニ關シテハ其ノ遺族ニ支給セラルル遺族年金ノ額ハ二十年以上一年ヲ増ス毎ニ其ノ一年ニ對シ平均報酬月額ノ二分ニ相當スル金額ヲ同項第三號又ハ第四號ノ金額ニ加ヘタル金額トス

第一項第三號又ハ第四號ノ場合ニ於テ同一ノ事業主ノ事業所又ハ同一ノ事業所ニ於テ引續キ被保險者タリシ期間十年以上ナル者ニ關シテハ其ノ遺族ニ支給セラルル遺族年金ノ額ハ其ノ期間ノ初ノ十年ニ對シ平均報酬月額ノ二分ニ相當スル金額ヲ十年以上五年ヲ増ス毎ニ其ノ五年ニ對シ平均報酬月額ノ二分ニ相當スル金額ヲ第一項第三號若ハ第四號又ハ前項ノ金額ニ加ヘタル金額トス

第四十五條ノ二 遺族年金ノ支給ヲ受クベキ遺族ノ範圍ニ屬スル子(現ニ遺族年金ノ支給ヲ受クル子ヲ除ク)アルトキハ其ノ子一人ニ付平均報酬月額ノ十分分ニ相當スル金額ヲ前條各項ノ金額ニ加給ス

第四十六條但書ヲ削ル
第四十六條ノ二 遺族年金ノ支給ヲ受クル者ガ一年以上所

在不明ナルトキハ次順位者ノ申請ニ依リ所在不明中遺族年金ノ支給ヲ停止スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ遺族年金ノ支給ヲ停止シタル場合ニ於テハ停止期間中遺族年金ハ之ヲ當該次順位者ニ轉給ス
第四十七條 遺族年金ノ支給ヲ受クル者ガ遺族年金ヲ受クル權利ヲ失ヒタル場合ニ於テ遺族年金ノ支給ヲ受クベキ後順位者ナキトキハ左ノ區別ニ依ル金額ヲ一時金トシテ被保險者タリシ者ノ遺族ニ支給ス

一 養老年金又ハ障害年金ノ支給ヲ受クル者ガ業務外ノ事由ニ因リ死亡シタルニ因リ遺族年金ノ支給ヲ受ケタル場合ニ在リテハ既ニ支給ヲ受ケタル養老年金又ハ障害年金ト其ノ遺族ガ其ノ者ノ死亡ニ關シ支給ヲ受ケタル遺族年金トノ合算額ガ養老年金又ハ障害年金ノ六年分ニ相當スル金額ニ滿タザルトキハ其ノ差額

二 被保險者タリシ期間二十年以上ナル者ガ養老年金ノ支給ヲ受クルコトナクシテ業務外ノ事由ニ因リ死亡シタルニ因リ遺族年金ノ支給ヲ受ケタル場合ニ在リテハ其ノ者ノ死亡ニ關シ既ニ支給ヲ受ケタル遺族年金ノ總額ガ其ノ者ノ支給ヲ受クルコトヲ得ベカリシ養老年金ノ六年分ニ相當スル金額ニ滿タザルトキハ其ノ差額

三 被保險者又ハ被保險者タリシ者ガ業務上ノ事由ニ因リ第三十九條ノ二第一項ノ規定ニ依ル勅令ノ定ムル期間内ニ死亡シタルニ因リ遺族年金ノ支給ヲ受ケタル場合ニ在リテハ其ノ者ノ死亡ニ關シ既ニ支給ヲ受ケタル遺族年金ノ總額ガ同條各項ノ區分ニ準ジ其ノ一時金ニ相當スル金額ニ滿タザルトキハ其ノ差額

「第五節 脱退手當金」ヲ「第五節 脱退手當金及結婚手當金」ニ改ム

第四十八條第一項中「死亡」ノ上ニ「業務外ノ事由ニ因リ」ヲ加ヘ「癱疾手當金」ヲ「障害手當金」ニ改ム

第四十九條 脱退手當金ノ額ハ平均報酬日額ニ被保險者タリシ期間ニ依リ別表第三ニ定ムル日數ヲ乘ジテ得タル金額トス但シ障害手當金ノ支給ヲ受ケタル者ニ支給スベキ額ハ障害手當金ノ額ト合算シテ平均報酬月額ノ二十二月分ニ相當スル金額（業務上ノ事由ニ因リ癱疾ト爲リタルニ因リ障害手當金ノ支給ヲ受ケタル者ニ支給スベキ脱退手當金ノ額ニ付テハ障害手當金ノ額ト合算シテ平均報酬月額ノ二十六月分ニ相當スル金額）ヲ超ユルコトヲ得ズ
同一ノ事業主ノ事業所又ハ同一ノ事業所ニ於テ引續キ被保險者タリシ期間十年以上ナル者ニ關シテハ其ノ期間十

年以上十五年未滿ナルトキハ平均報酬日額ノ二十日分ニ相當スル金額ヲ、其ノ期間十五年以上ナルトキハ平均報酬日額ノ四十日分ニ相當スル金額ヲ前項ノ金額ニ加算ス
第四十九條ノ二 被保險者タリシ期間三年以上二十年未滿ナル者ガ業務外ノ事由ニ因リ死亡シタル場合ニ於テハ其ノ者ニ付支給セララル脱退手當金ノ額ハ前條第一項ノ規定ニ拘ラズ平均報酬日額ニ被保險者タリシ期間ニ依リ別表第四ニ定ムル日數ヲ乘ジテ得タル金額トス
前條第二項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス
第四十九條ノ三 被保險者タリシ期間六月以上三年未滿ナル者ガ業務外ノ事由ニ因リ死亡シタルトキ其ノ他命令ヲ以テ定ムル場合ニ於テハ第四十八條第一項ノ規定ニ拘ラズ勅令ノ定ムル所ニ依リ脱退手當金ヲ支給ス
第五十一條ノ次ニ左ノ二條ヲ加フ
第五十一條ノ二 被保險者タリシ期間三年以上ナル女子タル被保險者ガ婚姻シタルトキ又ハ被保險者ノ資格喪失後一年以内ニ婚姻シタルトキハ平均報酬月額ノ六月分ニ相當スル金額ノ結婚手當金ヲ支給ス但シ既ニ結婚手當金ノ支給ヲ受ケタル者ニハ之ヲ支給セズ
第五十一條ノ三 女子タル被保險者ニシテ配偶者（夫ノ死

亡後仍其ノ家ニ在ル者ヲ含ム）タルモノ（既ニ結婚手當金ノ支給ヲ受ケタル者ヲ除ク）ガ第四十八條第一項ノ規定ニ相當スル場合ニ於テハ第四十九條及第四十九條ノ二ノ規定ニ拘ラズ勅令ノ定ムル所ニ依リ脱退手當金ヲ支給ス前項ノ規定ニ依リ被保險者タリシ者トシテ脱退手當金ノ支給ヲ受ケタル者ニハ結婚手當金ヲ支給セズ
第四十八條第二項及第三項ノ規定ハ第一項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第五十二條第一項中「癱疾年金、癱疾手當金」ヲ「障害年金、障害手當金、第四十二條ノ二ノ規定ニ依ル一時金」ニ、同條第二項中「第三十三條、第三十四條、第三十八條、第三十九條若ハ第四十七條」ヲ「第三十條ノ二ノ規定ニ依ル支給金、第三十三條、第三十四條、第三十八條乃至第三十九條ノ二若ハ第四十七條」ニ改メ、被保險者タリシ者ノ下ニ、「第三十條ノ二ノ規定ニ依ル支給金ノ支給ヲ受ケタル者」ヲ加フ
第五十三條中「癱疾年金又ハ癱疾手當金」ヲ「障害年金、障害手當金又ハ第四十二條ノ二ノ規定ニ依ル一時金」ニ改ム
第五十七條第二項中「前項」ヲ「前項及第七十條ノ三」ニ、「労働者年金保險事業」ヲ「厚生年金保險事業」ニ改ム
第五十八條第一項中「労働者年金保險事業」ヲ「厚生年金保

險事業」ニ改ム

第五十九條ノ二 被保險者ガ陸海軍ニ徵集又ハ召集セラレタル場合ニ於テハ勅令ノ定ムル所ニ依リ其ノ期間保險料ヲ徵收セズ

第七章 戰時特例

第七十條ノ二 大東亞戰爭ニ際シ被保險者ガ坑内夫タル被保險者トシテ使用セラレタルトキハ其ノ期間ニ於ケル被保險者タリシ期間ニ三分ノ一ヲ乘ジタル期間ヲ加算ス
前項ノ規定ニ依リ加算ノ認メラルベキ期間其ノ他加算ニ關シ必要ナル事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム
第七十條ノ三 國庫ハ第五十七條第一項ノ規定ニ拘ラズ前條ノ規定ニ依リ増加スベキ保險給付ニ要スル費用ヲ負擔ス

第七十二條第一項但書中「第三十一條第二項後段」ノ下ニ、「第三十九條ノ二、第四十四條第三號又ハ第四十九條ノ二」ヲ加ヘ同條第二項但書中「前項ノ規定ニ依リ脱退手當金」ヲ「第一項若ハ第四十九條ノ三ノ規定ニ依ル脱退手當金、第三十九條ノ二ノ規定ニ依ル一時金又ハ第四十四條第三號ノ規定ニ依ル遺族年金」ニ、同條第三項中「前二項」ヲ「第一項及第三項」ニ改メ同條第一項ノ次ニ左ノ一項ヲ加フ

前項ノ規定ニ依リ脱退手當金ノ支給ヲ受クル者ニハ第四十九條ノ三ノ規定ニ依ル脱退手當金ヲ支給セズ
別表ヲ左ノ如ク改ム

別表第一

癩疾ノ程度	月	數
一級	八	〇
二級	七	〇
三級	六	五
四級	六	〇
五級	五	五
六級	五	〇

別表第二

癩疾ノ程度	月	數
一級	二	五

別表第三

被保險者タリシ期間	日數	被保險者タリシ期間	日數
二	級	二	〇
三	級	一	五
四	級	一	二
五	級		九
六	級		六
七	級		四
八	級		二

別表第四

被保險者タリシ期間	日數	被保險者タリシ期間	日數
一一年以上	二五〇	一六年以下	四〇五
一二年以上	二八〇	一七年以上	四四〇
一三年以上	三一〇	一八年以上	四七五
一四年以上	三四〇	一九年以上	五一〇
一五年以上	三七〇		

被保險者タリシ期間	日數	被保險者タリシ期間	日數
三年以上	一二〇	九年以上	三〇〇
四年以上	一五〇	一〇年以上	三三〇
五年以上	一八〇	一一年以上	三六〇
六年以上	二一〇	一二年以上	三九五
七年以上	二四〇	一三年以上	四三〇
八年以上	二七〇	一四年以上	四六五

附 則

第一條 本法施行ノ期日ハ保險給付ニ關スル改正規定及其ノ他ノ各規定ニ付勅令ヲ以テ之ヲ定ム
第二條 被保險者タリシ期間六月以上三年未滿ナル者ガ保險給付ニ關スル改正規定施行ノ日前ニ於テ命令ヲ以テ定ムル事由ニ因リ被保險者ノ資格ヲ喪失シタル場合ニ於テハ第四十八條第一項ノ改正規定ニ拘ラズ勅令ノ定ムル所ニ依リ脱退手當金ヲ支給ス
從前ノ第七十二條第一項又ハ第二項ノ規定ニ依リ脱退手當金ノ支給ヲ受クル者ニハ前項ノ規定ニ依ル脱退手當金ヲ支給セズ
第三條 第十六條ノ改正規定及第十九條ノ三ノ規定ニ依リ被保險者ト爲リタル者(從前ノ第十六條ノ規定ニ依リ被保險者タリ得ル者ヲ除ク)ニ關シテハ保險給付ニ關スル改正規定施行ノ日ノ前日迄第五十八條ノ改正規定及厚生

被保險者タリシ期間	日數	被保險者タリシ期間	日數
一五年以上	五〇〇	一八年以上	六二〇
一六年以上	五四〇	一九年以上	六六〇
一七年以上	五八〇		

年金保險法第五十九條乃至第六十一條ノ規定ハ之ヲ適用セズ

第四條 第十六條ノ改正規定ニ依リ被保險者ト爲リタル者(從前ノ第十六條ノ規定ニ依リ被保險者タリ得ル者ヲ除ク)ニシテ保險給付ニ關スル改正規定施行ノ日ニ於テ現ニ使用セラルル事業主ノ事業所又ハ現ニ使用セラルル事業所ニ同日迄引續キ第十六條ノ改正規定ニ依ル被保險者ト爲ルベキ資格ヲ有スル者トシテ五年以上使用セラレ同日ニ於テ同條ノ規定ニ依ル被保險者タルモノガ被保險者タリシ期間二十年未滿ニシテ五十歳(續業法ノ適用ヲ受クル事業場ニ同日ニ於テ當時坑内作業ニ従事スル者トシテ使用セラルル者ニ在リテハ四十四歳)ヲ超エ被保險者ノ資格ヲ喪失シタル場合ニ於テハ其ノ者ニ對スル脱退手當金ノ支給條件及其ノ額ニ付テハ第四十八條及第四十九條ノ改正規定ニ拘ラズ勅令ヲ以テ別段ノ定ヲ爲スコトヲ得但シ第三十一條第二項後段ノ改正規定、第三十九條ノ二ノ規定、第四十四條第三號ノ改正規定又ハ第四十九條ノ二若ハ第五十一條ノ三第一項ノ規定ニ該當スル者ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

十九條ノ三ノ規定ニ依ル脱退手當金ヲ支給セズ
厚生年金保險法第二十五條但書ノ規定ハ第一項ノ場合ニ之ヲ適用セズ但シ第二十四條ノ改正規定ニ依リ計算シタル期間一年未滿ナル者ノ坑内夫タル被保險者トシテ使用セラレタル實期間ニ關シテハ第二十四條ノ改正規定ニ依リ之ヲ計算ス

第五條 第十六條ノ改正規定及第十六條ノ三ノ規定ニ依リ被保險者ト爲リタル者(從前ノ第十六條ノ規定ニ依リ被保險者タリ得ル者ヲ除ク)ニ關シテハ保險給付ニ關スル改正規定施行ノ日前ニ於テ被保險者タリシ期間ハ第二十四條ノ改正規定ニ依ル被保險者タリシ期間ニ之ヲ算入セズ

第六條 第十六條ノ改正規定ニ依リ被保險者ト爲リタル者(從前ノ第十六條ノ規定ニ依リ被保險者タリ得ル者ヲ除ク)ニシテ保險給付ニ關スル改正規定施行ノ日ニ於テ厚生年金保險法第七十四條ノ共済組合ノ組合員タルモノニ關シテハ同法ノ適用ニ付勅令ヲ以テ別段ノ定ヲ爲スコトヲ得

第七條 第十六條ノ改正規定ニ依リ被保險者ト爲リタル者(從前ノ第十六條ノ規定ニ依リ被保險者タリ得ル者ヲ除

ク)ニシテ保險給付ニ關スル改正規定施行ノ日ニ於テ郵便年金契約ノ年金受取人タルモノニ關シテハ其ノ契約ガ郵便年金令第十四條ノ規定ノ適用ヲ受クル場合ニ於テハ厚生年金保險法及郵便年金法ノ適用ニ付勅令ヲ以テ別段ノ定ヲ爲スコトヲ得

第八條 第七十條ノ三ノ規定ハ昭和十九年一月一日以後坑内夫タル被保險者トシテ使用セラレタル期間ニ之ヲ適用ス

第九條 退職積立金及退職手當法ハ之ヲ廢止ス

第十條 前條ノ規定施行ノ際退職積立金及退職手當法ノ適用ヲ受クル労働者ハ同法ノ適用ニ付テハ同條ノ規定施行ノ日ノ前日ニ於テ已ムヲ得ザル事由アリタルニ因リ退職シタルモノト看做ス

第十一條 前條ニ規定スル労働者ハ同條ノ規定ニ拘ラズ退職積立金及退職手當法第十二條ニ規定スル場合ニ相當スル場合ニ該當スルニ至リタル時ニ於テ退職積立金ノ支拂及退職手當ノ支給ヲ受クルモノトス

事業主ハ退職積立金ノ支拂又ハ退職手當ノ支給ヲ爲ス場合ニ於テハ附則第九條ノ規定施行ノ日以後退職積立金ノ支拂及退職手當ノ支給ノ日ノ前日迄命令ヲ以テ定ムル利

子ヲ附スベシ

第十二條 退職積立金ノ支拂又ハ退職手當ノ支給ノ完了ニ至ル迄ハ之ニ必要ナル限度ニ於テ退職積立金及退職手當法第四條、第七條、第九條、第十二條、第十五條、第二十條、第二十二條、第二十三條、第二十四條第一項本文及第二項乃至第四項、第二十九條、第三十條第三項前段及第四項、第三十三條乃至第三十七條、第四十一條第二項、第四十二條並ニ第四十三條ノ規定ハ仍其ノ效力ヲ有ス

退職積立金及退職手當法ニ依リ積立テタル退職手當積立金及準備積立金ニ付テハ國稅徵收法ニ依ル差押ヲ爲スコトヲ得ズ

退職積立金及退職手當法ニ依リ積立テタル積立金ノ預入金ニ付テハ郵便貯金法第三條第一項第二號ノ制限ヲ適用セズ

第十三條 附則第九條ノ規定施行前又ハ前條ノ規定ニ依ル退職積立金及退職手當法ノ規定失効前ニ爲シタル行爲ノ處罰ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル

第十四條 國稅徵收法中左ノ通改正ス
第十六條第二項ヲ削ル

第十五條 郵便貯金法中左ノ通改正ス

第四條第五號ヲ削ル

第十六條 健康保險法中左ノ通改正ス

第四十四條ノ二ヲ削ル

第四十七條第二項ヲ左ノ如ク改メ同條第三項ヲ削ル

業務上ノ事由ニ因ル疾病又ハ負傷及之ニ因リ發シタル疾病並ニ主務大臣ノ指定スル疾病ニ關シテハ保險者ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ前項ノ期間ヲ超エ繼續シテ傷病手當金ノ支給ヲ爲スモノトス

第四十八條 削除

第五十五條中「被保險者トシテ保險給付ヲ受クルコトヲ得ベカリシ期間」ヲ「勅令ヲ以テ定ムル期間」ニ改ム

第五十七條ノ三 療養ノ給付及傷病手當金ノ支給ハ勅令ヲ以テ定ムル事由ニ該當スルニ至リタルトキハ之ヲ爲

サズ

第十七條 鑛業法中左ノ通改正ス

第八十條ニ左ノ一項ヲ加フ

鑛夫ガ健康保險法又ハ厚生年金保險法ニ依リ前項ノ扶助ニ相當スル保險給付ヲ受クベキトキハ鑛業權者ハ同項ノ規定ニ拘ラズ同項ノ扶助ヲ爲スコトヲ要セズ

第十八條 工場法中左ノ通改正ス

第十五條ニ左ノ一項ヲ加フ

職工ガ健康保險法又ハ厚生年金保險法ニ依リ前項ノ扶助ニ相當スル保險給付ヲ受クベキトキハ工業主ハ同項ノ規定ニ拘ラズ同項ノ扶助ヲ爲スコトヲ要セズ

第十九條 勞働者災害扶助法中左ノ通改正ス

第二條ニ左ノ一項ヲ加フ

勞働者ガ健康保險法又ハ厚生年金保險法ニ依リ前項ノ扶助ニ相當スル保險給付ヲ受クベキトキハ事業主ハ同項ノ規定ニ拘ラズ同項ノ扶助ヲ爲スコトヲ要セズ

〔參照〕

昭和十六年三月十一日公布法律第六十號勞働者年金保險法抄

錄

第一條 勞働者年金保險ニ於テハ被保險者又ハ被保險者タリシ者ノ老齡、癱疾、死亡又ハ脫退ニ關シ保險給付ヲ爲スモノトス

第三條 本法ニ於テ報酬ト稱スルハ事業ニ使用セラルル者ガ勞務ノ對價トシテ事業主ヨリ受クル賃金又ハ給料及之ニ準ズベキモノヲ謂フ
賃金又ハ給料ニ準ズベキモノノ範圍及評價ニ關シテハ

六 前各號ニ掲グル者ノ外勅令ヲ以テ指定スル者

第十七條第一項及第二項

左ノ各號ノ一ニ該當スル勞働者ハ地方長官（東京府ニ在リテハ警視總監以下同シ）ノ認可ヲ受ケ勞働者年金保險ノ被保險者ト爲ルコトヲ得

一 前條第一號、第二號又ハ第三號ノ規定ニ該當スル者

二 健康保險法第十三條ノ事業所以外ノ事業所ニ使用セラルル者

前條第四號乃至第六號ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第十八條 第十六條ノ事業所ガ左ノ各號ノ一ニ該當スル

ニ至リタルトキハ其ノ際同條ノ規定ニ依ル被保險者トシテ其ノ事業所ニ使用セラルル者ニ付テハ前條ノ認可アリタルモノト看做ス

一 第十六條ニ規定スル勞働者ヲ常時十人未滿使用スル事業所ト爲ルニ至リタルトキ

二 第十六條第二號ノ規定ニ依リ指定スル事業所ト爲ルニ至リタルトキ

三 前條第一項第二號ノ事業所ト爲ルニ至リタルトキ

勅令ヲ以ル之ヲ定ム

第五條 保險料其ノ他本法ニ依ル徵收金ヲ徵收シ又ハ其

ノ還付ヲ受クル權利及癱疾手當金ヲ受クル權利ハ一年ヲ經過シタルトキ、養老年金、癱疾年金、遺族年金、

脫退手當金又ハ第三十三條、第三十四條、第三十八條、第三十九條、第四十七條若ハ第五十一條ノ規定ニ依ル

一時金ヲ受クル權利ハ五年ヲ經過シタルトキハ時效ニ因リテ消滅ス

第十四條 政府ノ事業ニ使用セラルル者及使用セラレタル者ニ關シテハ本法ノ適用ニ付勅令ヲ以テ別段ノ定ヲ爲スコトヲ得

第十六條 健康保險法第十三條ノ事業所ニ使用セラルル

勞働者ハ勞働者年金保險ノ被保險者トス但シ左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ此ノ限ニ在ラズ

一 常時十人未滿ノ勞働者ヲ使用スル事業所ニ使用セラルル者

二 勅令ヲ以テ指定スル事業所ニ使用セラルル者

三 女子

四 船員保險ノ被保險者

五 帝國臣民ニ非ザル者

第十九條 第十六條ノ規定ニ依ル被保險者ハ其ノ業務ニ使用セラルルニ至リタル日又ハ同條但書ノ規定ニ該當セザルニ至リタル日、第十七條ノ規定ニ依ル被保險者ハ同條ノ認可アリタル日ヨリ其ノ資格ヲ取得ス

第二十條 第十六條及第十七條ノ規定ニ依ル被保險者ハ死亡シタル日、其ノ業務ニ使用セラレザルニ至リタル日又ハ第十六條第四號乃至第六號若ハ第十七條第二項ノ規定ニ該當スルニ至リタル日ノ翌日（其ノ事實アリタル日ニ更ニ前條ノ規定ニ該當スルニ至リタルトキハ其ノ日）ヨリ其ノ資格ヲ喪失ス

第二十二條 第一項

被保險者タリシ期間十四年以上二十年未満ナル者ガ被保險者タラザルニ至リタル場合ニ於テハ勅令ノ定ムル所ニ依リ繼續シテ被保險者ト爲ルコトヲ得但シ其ノ者ガ日本ノ國籍ヲ失ヒタハトキハ此ノ限ニ在ラズ

第二十四條 第一項及第二項

被保險者タリシ期間ノ計算ハ被保險者ノ資格ヲ取得シタル月ヨリ之ヲ起算シ其ノ資格ヲ喪失シタル月ノ前月ヲ以テ之ヲ止ム但シ十六日以後ニ於テ被保險者ノ資格ヲ取消シタルトキハ其ノ月ハ半月トシテ之ヲ計算シ十

六日以後ニ於テ被保險者ノ資格ヲ喪失シタルトキハ其ノ月ハ半月トシテ之ヲ被保險者タリシ期間ニ加算ス
前項ノ規定ニ拘ラズ被保險者ノ資格ヲ取得シタル月ニ於テ其ノ資格ヲ喪失シタル場合ニ於テハ其ノ月ハ半月トシテ之ヲ被保險者タリシ期間ニ加算ス

第二十六條

遺族年金又ハ第三十三條、第三十四條、第三十八條、第三十九條若ハ第四十七條ノ規定ニ依ル一時金ヲ受クベキ遺族ノ範圍及順位ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第三十一條

被保險者タリシ期間二十年以上ナル者ガ其ノ資格ヲ喪失シタル後五十五歳ヲ超エタルトキ又ハ五十五歳ヲ超エ其ノ資格ヲ喪失シタルトキハ其ノ者ノ死亡ニ至ル迄養老年金ヲ支給ス

坑内夫タル被保險者トシテ第二十四條ノ規定ニ依ル計算ニ依リ十五年以上使用セラレタル者ニ付テハ前項ノ規定ニ拘ラズ其ノ者ガ被保險者ノ資格ヲ喪失シタル後五十歳ヲ超エタルトキ又ハ五十歳ヲ超エ其ノ資格ヲ喪失シタルトキヨリ其ノ者ノ死亡ニ至ル迄養老年金ヲ支給ス繼續シタル十五年間ニ於テ坑内夫タル被保險者トシテ同條ノ規定ニ依ル計算ニ依リ十二年以上使用セラ

レタル若ニ付亦同ジ

第三十二條 養老年金ノ額ハ被保險者タリシ全期間ノ平均報酬年額ノ百分ノ二十五ニ相當スル金額トシ被保險者タリシ期間二十年以上一年ヲ増ス毎ニ其ノ一年ニ對シ被保險者タリシ全期間ノ平均報酬年額ノ百分ノ一ニ相當スル金額ヲ加ヘタル金額トス

同一ノ事業主ノ事業所又ハ同一ノ事業所ニ於テ引續キ被保險者タリシ期間十年以上ナル者ニ關シテハ其ノ者ニ支給セラルル養老年金ノ額ハ前項ノ金額ニ其ノ期間ノ毎十年ニ對シ被保險者タリシ全期間ノ平均報酬年額ノ百分ノ一ニ相當スル金額ヲ加ヘタル金額トス
前二項ノ規定ニ拘ラズ養老年金ノ額ハ被保險者タリシ全期間ノ平均報酬年額ノ百分ノ五十ヲ超エルコトヲ得ズ

第三十三條

養老年金ノ支給ヲ受クル者ガ死亡シタル際其ノ者ノ死亡ニ關シ遺族年金ノ支給ヲ受クベキ場合ニ於テ既ニ支給ヲ受ケタル養老年金ノ總額ガ養老年金ノ五年分ニ相當スル金額ニ滿タザルトキハ其ノ差額ヲ一時金トシテ其ノ遺族ニ支給ス

第三十四條 第一項

被保險者タリシ期間二十年以上ナル者（第三十一條第二項後段ノ規定ニ該當スル者ヲ含ム以下同ジ）ガ養老年金ノ支給ヲ受クルコトナクシテ死亡シタル際其ノ者ノ死亡ニ關シ遺族年金ノ支給ヲ受クベキ者ナキ場合ニ於テハ其ノ者ガ支給ヲ受クルコトヲ得ベカリシ養老年金ノ五年分ニ相當スル金額ヲ一時金トシテ其ノ遺族ニ支給ス

第三十六條

被保險者ノ資格喪失前ニ發シタル疾病又ハ負傷及之ニ因リ發シタル疾病ガ勅令ノ定ムル期間内ニ治癒シタル場合又ハ治癒セザルモ其ノ期間ヲ經過シタル場合ニ於テ勅令ノ定ムル程度ノ癱疾ノ状態ニ在ル者ニハ其ノ程度ニ應ジ其ノ者ノ死亡ニ至ル迄癱疾年金ヲ支給シ又ハ一時金トシテ癱疾手當金ヲ支給ス

癱疾年金又ハ癱疾手當金ノ支給ヲ受クルニハ癱疾ト爲リタル日前五年間ニ被保險者タリシ期間三年以上ナル者タルコトヲ要ス

第三十七條

癱疾年金ノ額ハ被保險者タリシ全期間ノ平均報酬年額ノ百分ノ二十五ニ相當スル金額トシ被保險者タリシ期間二十年以上一年ヲ増ス毎ニ其ノ一年ニ對シ被保險者タリシ全期間ノ平均報酬年額ノ百分ノ一ニ

相當スル金額ヲ加ヘタル金額トス
 同一ノ事業主ノ事業所又ハ同一ノ事業所ニ於テ引續キ
 被保險者タリシ期間十年以上ナル者ニ關シテハ其ノ者
 ニ支給セラルル癡疾年金ノ額ハ前項ノ金額ニ其ノ期間
 ノ毎十年ニ對シ被保險者タリシ全期間ノ平均報酬年額
 ノ百分ノ一ニ相當スル金額ヲ加ヘタル金額トス
 第三十二條第三項ノ規定ハ前二項ノ場合ニ之ヲ準用ス
 癡疾手當金ノ額ハ被保險者タリシ全期間ノ平均報酬月
 額ノ七分分ニ相當スル金額トス

第三十八條 被保險者タリシ期間二十年未滿ナル者ニシ
 テ癡疾年金ノ支給ヲ受クルモノガ死亡シタル場合ニ於
 テ既ニ支給ヲ受ケタル癡疾年金ノ總額ガ被保險者ノ資
 格喪失ノ際支給ヲ受クルコトヲ得ベカリシ脱退手當金
 及被保險者タリシ全期間ノ平均報酬月額ノ七分分ノ合
 算額(被保險者タリシ全期間ノ平均報酬月額ノ十三月
 分ヲ超ユルトキハ十三月分ニ止ム)ニ相當スル金額ニ
 滿タザルトキハ其ノ差額ヲ一時金トシテ其ノ遺族ニ支
 給ス
 前項ノ規定ハ第三十一條第二項後段ノ規定ニ該當スル
 者ガ死亡シタル場合ニ於テハ之ヲ適用セズ

第三十九條 被保險者タリシ期間二十年以上ナル者ニシ
 テ癡疾年金ノ支給ヲ受クルモノガ死亡シタル際其ノ者
 ノ死亡ニ關シ遺族年金ノ支給ヲ受クベキ者ナキ場合ニ
 於テ既ニ支給ヲ受ケタル癡疾年金ノ總額ガ癡疾年金ノ
 五分分ニ相當スル金額ニ滿タザルトキハ其ノ差額ヲ一
 時金トシテ其ノ遺族ニ支給ス
 第四十條 養老年金及癡疾年金ヲ受クル權利ヲ有スル者
 ニハ命令ノ定ムル所ニ依リ其ノ一ヲ支給ス
 第四十二條 養老年金ヲ受クル權利ヲ有スル者ニハ癡疾
 手當金ヲ支給セズ
 第四十三條 第三十五條ノ規定ハ癡疾年金ノ支給ニ關シ
 之ヲ準用ス

第四十四條 被保險者タリシ期間二十年以上ナル者ガ死
 亡シタルトキハ其ノ遺族ニ對シ十年間遺族年金ヲ支給
 ス
 第四十五條 遺族年金ノ額ハ左ノ區別ニ依ル金額トス
 一 養老年金又ハ癡疾年金ノ支給ヲ受クル者ガ死亡シ
 タル場合ニ於テハ其ノ者ニ支給セラルル養老年金又
 ハ癡疾年金ノ額ノ二分ノ一ニ相當スル金額
 二 被保險者タリシ期間二十年以上ナル者ガ養老年金

ノ支給ヲ受クルコトナクシテ死亡シタル場合ニ於テ
 ハ其ノ者ガ支給ヲ受クルコトヲ得ベカリシ養老年金
 ノ額ノ二分ノ一ニ相當スル金額

第四十七條 遺族年金ノ支給ヲ受クル者ガ遺族年金ヲ受
 クル權利ヲ失ヒタル場合ニ於テ遺族年金ヲ受クル權利
 ヲ失ヒタル場合ニ於テ遺族年金ノ支給ヲ受クベキ後順
 位者ナキトキハ左ノ區別ニ依ル金額ヲ一時金トシテ被
 保險者タリシ者ノ遺族ニ支給ス

一 養老年金又ハ癡疾年金ノ支給ヲ受クル者ガ死亡シ
 タルニ因リ遺族年金ノ支給ヲ受ケタル場合ニ在リテ
 ハ既ニ支給ヲ受ケタル養老年金又ハ癡疾年金ト其ノ
 遺族ガ其ノ者ノ死亡ニ關シ支給ヲ受ケタル遺族年金
 トノ合算額ガ養老年金又ハ癡疾年金ノ五分分ハ相當
 スル金額ニ滿タザルトキハ其ノ差額
 二 被保險者タリシ期間二十年以上ナル者ガ養老年金
 ノ支給ヲ受クルコトナクシテ死亡シタルニ因リ遺族
 年金ノ支給ヲ受ケタル場合ニ在リテハ其ノ者ノ死亡
 ニ關シ既ニ支給ヲ受ケタル遺族年金ノ總額ガ其ノ者
 ノ支給ヲ受クルコトヲ得ベカリシ養老年金ノ五分分
 ニ相當スル金額ニ滿タザルトキハ其ノ差額

第四十八條 被保險者タリシ期間三年以上二十年未滿ナ
 ル者ガ死亡シタルトキ又ハ其ノ資格ヲ喪失シタル後更
 ニ被保險者ト爲ルコトナクシテ一年ヲ經過シタルトキ
 ハ脱退手當金ヲ支給ス但シ其ノ者ガ癡疾手當金ノ支給
 ヲ受クルトキハ一年ヲ經過セザル場合ト雖モ之ヲ支給
 ス
 前項ノ規定ニ拘ラズ現ニ被保險者タル者ニ對シテハ脱
 退手當金ハ之ヲ支給セズ
 第一項ノ規定ハ第三十一條第二項後段ノ規定ニ該當ス
 ル者ニ對シテハ之ヲ適用セズ

第四十九條 脱退手當金ノ額ハ被保險者タリシ金期間ノ
 平均報酬月額ノ三十分ノ一ノ額ニ被保險者タリシ期間
 ニ依リ別表ニ定ムル日數ヲ乘ジテ得タル金額トス但シ
 癡疾手當金ノ支給ヲ受クル者ニ支給スベキ額ハ癡疾手
 當金ノ額ト合算シテ被保險者タリシ全期間ノ平均報酬
 月額ノ十三月分ニ相當スル金額ヲ超ユルトコトヲ得ズ
 第五十二條 被保險者又ハ被保險者タリシ者ガ自己ノ故
 意ノ犯罪行爲ニ因リ又ハ故意ニ事故ヲ生ゼシメタルト
 キハ癡疾年金、癡疾手當金又ハ遺族年金ヲ支給セズ
 第三十三條、第三十四條、第三十八條、第三十九條若

ハ第四十七條ノ規定ニ依ル一時金又ハ遺族年金ノ支給ヲ受クベキ者ガ被保險者被保險者タリシ者又ハ遺族年金ノ支給ヲ受クル者ヲ故意ニ死ニ致シタルトキハ其ノ者ニ對シテハ支給セズ此ノ場合ニ於テ後順位者アルトキハ其ノ者ニ支給ス

第五十七條 國庫ハ保險給付ニ要スル費用ニ付勅令ノ定ムル所ニ依リ坑内夫タル被保險者タリシ期間ニ係ル費用ニ關シテハ其ノ十分ノ二ヲ、其ノ他ノ被保險者タリシ期間ニ係ル費用ニ關シテハ其ノ十分ノ一ヲ負擔ス 國庫ハ前項ニ規定スル費用ノ外毎年度豫算ノ範圍内ニ於テ労働者年金保險事業ノ事務ノ執行ニ要スル費用ヲ負擔ス

第七十二條第一項及第二項 被保險付及費用ノ負擔ニ關スル規定施行ノ日ニ於テ現ニ使用セララルル事業主ノ工場、事業場若ハ事業又ハ現ニ使用セララルル工場、事業場若ハ事業ニ同日迄引續キ第十六條ノ規定ニ依ル被保險者ト爲ルベキ資格ヲ有スル者トシテ五年以上使用セラレタル者ニシテ同日ニ於テ同條ノ規定ニ依ル被保險者ト爲リタルモノガ被保險者タリシ期間二十年未滿ニシテ五十歳(續業法ノ適用

ヲ受クル事業ノ事業場ニ同日ニ於テ常時坑内作業ニ従事スル者トシテ使用セララルル者ニ在リテハ四十五歳)ヲ超エ被保險者ノ資格ヲ喪失シタル場合ニ於テハ其ノ者ニ對スル脱退手當金ノ支給條件及其ノ額ニ付テハ第四十八條及第四十九條ノ規定ニ拘ラズ勅令ヲ以テ別段ノ定ヲ爲スコトヲ得但シ第三十一條第二項後段ノ規定ニ該當スル者ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ 保險給付及費用ノ負擔ニ關スル規定施行ノ日ニ於テ五十歳(續業法ノ適用ヲ受クル事業ノ事業場ニ同日ニ於テ當時坑内作業ニ従事スル者トシテ使用セララルル者ニ在リテハ四十五歳)ヲ超エタル者ニシテ同日ニ於テ第十六條ノ規定ニ依ル被保險者ト爲リタルモノガ被保險者タリシ期間六月以上三年未滿ニシテ被保險者ノ資格ヲ喪失シタル場合ニ於テハ第四十八條ノ規定ニ拘ラズ勅令ノ定ムル所ニ依リ之ニ脱退手當金ヲ支給スルコトヲ得但シ前項ノ規定ニ依リ脱退手當金ノ支給ヲ受クル場合ニ於テハ此ノ限ニ在ラズ

昭和十九年七月一日 初版印刷
昭和十九年七月十日 初版發行

(三、〇〇〇部)

出版會承認 イ 250449 號

携 必 務 實 務 勞

有所元版權版

(定) 定 價 ￥ 6,20

特 別 行 爲 稅 .30

合 計 賣 價 ￥ 6.50

編著者

産業科學研究所

發行者

武 井 義 通

印刷者

東京都神田區駿河臺二ノ四
合名 新陽堂 印刷所
東東一〇八五 原相太郎

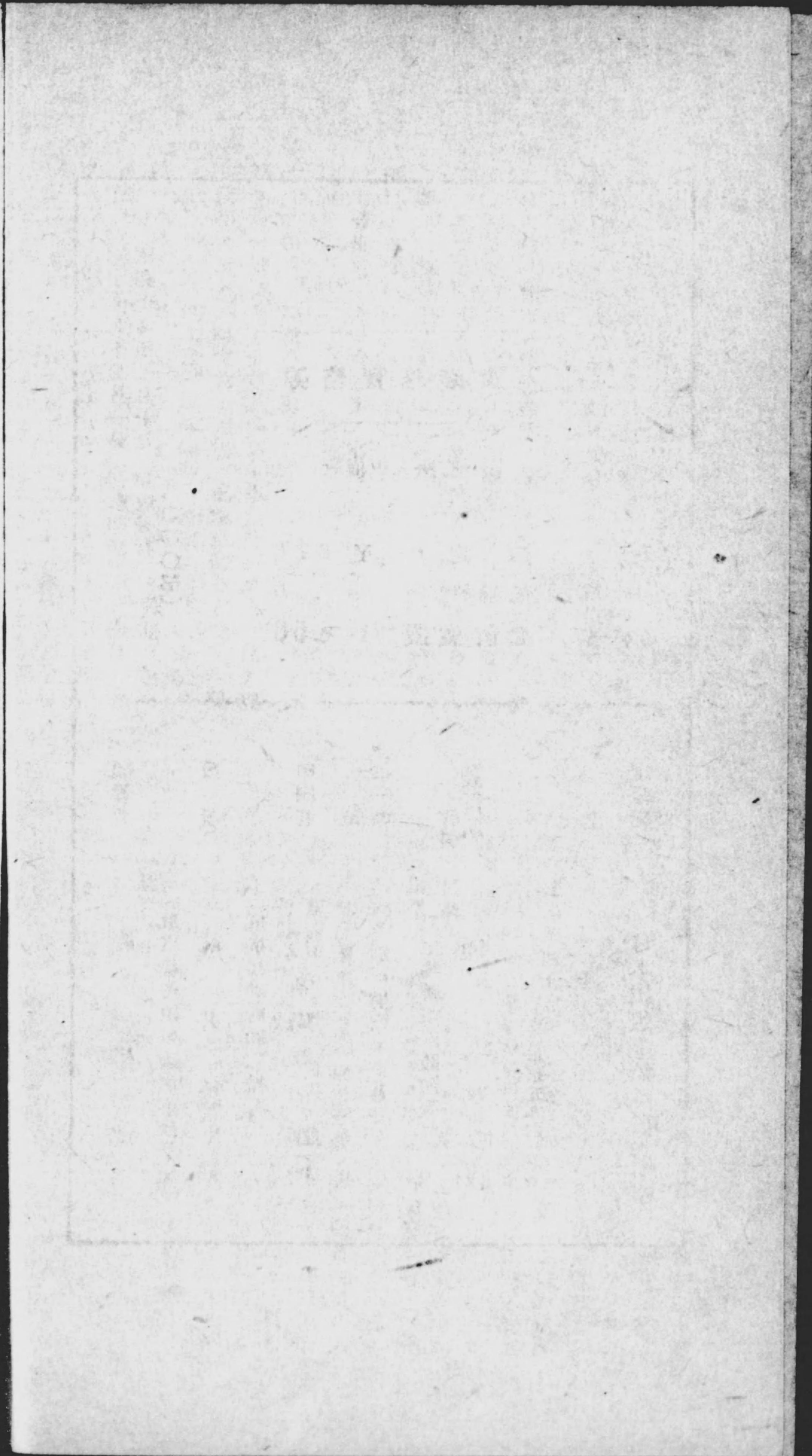
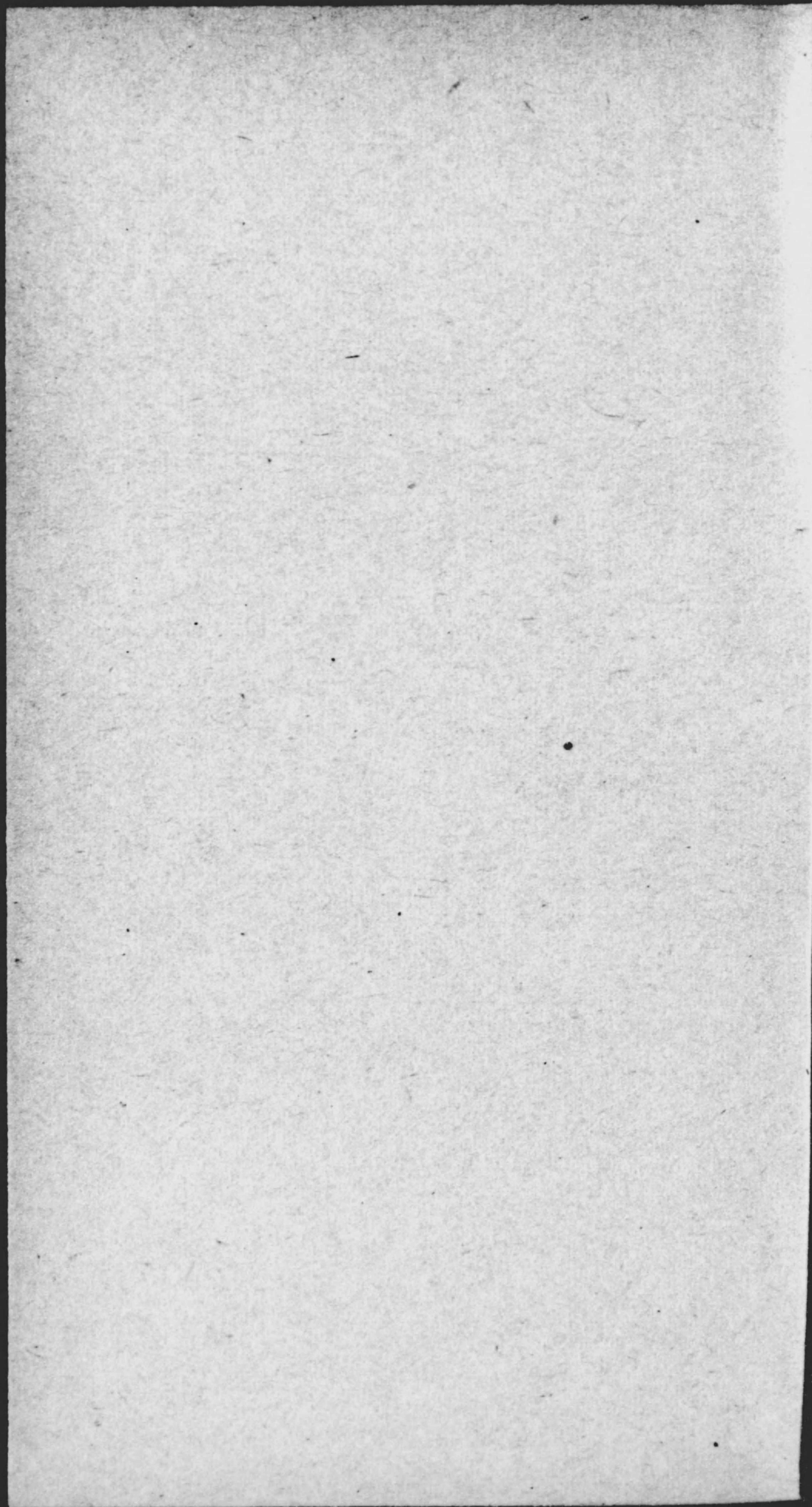
發行所

東京都神田區駿河臺二ノ四
通 文 閣

電話神田五一八番
振替東京五九六八七番

配給元

東京都神田區淡路町二ノ一九
日本出版配給株式會社



983
E
117

